取扱説明書

VT500XL

ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルを
お読みになり、内容を理解してからお使いください。

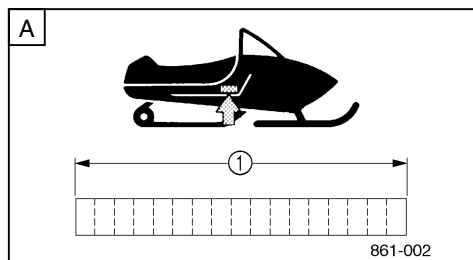
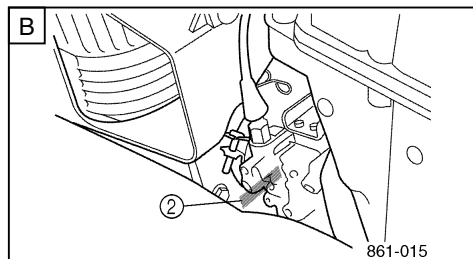
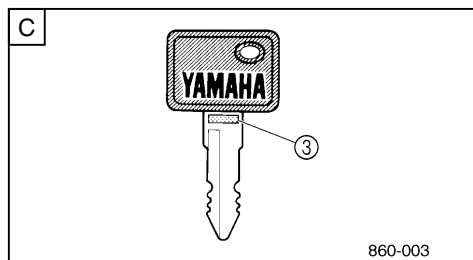
8DX-28199-00

識別番号の記録

ヤマハ販売店にスペアパーツを注文するときのために、車体番号、エンジン番号(PRIMARY ID)、キーナンバーを下の空欄に記入しておいてください。

A. 車体番号：

B. エンジン番号 (PRIMARY ID):

C. キーナンバー：

① **車体番号**はスノーモビルの車体に7桁の数字で刻印されています。(図 A.を参照)

② **エンジン番号**は図の位置に刻印されています。(図 B.を参照)

③ **キーナンバー**（図 C.を参照）

スノーモビルが盗難にあったときのためにこのマニュアルとは別にID番号を控えておいてください。

おねがい

⚠警　告

本書をよく読んで理解した上でスノーモビルを運転してください。

要　点

- ヤマハは製品の設計と品質を絶えず向上させるよう努めています。従って、本書には印刷時点で最新の製品情報を記載していますが、お買い求めのスノーモビルと若干の食い違いがあるかもしれません。本書について疑問がありましたらお買い求めのヤマハ販売店にご相談ください。
- 本書はスノーモビルの一部品と考え、スノーモビルを転売される時も一緒に引き渡してください。

本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	安全に係わる注意情報を意味しています。
⚠警　告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
⚠注　意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要　点	正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

保証

スノーモビルのトラブルの原因や対処法が分からない場合、お近くのヤマハ販売店にご相談ください。正しい対処をおこなうことは、保証期間の間は特に大切です。不正、無計画的、あるいは不適切な修理がおこなわれた場合、保証は無効となります。ヤマハ販売店はスノーモビルの適切な修理に必要な工具、技術、スペアパーツを揃えています。適切な仕様や保守手順について疑問があった場合はいつでもヤマハ販売店にご相談ください。
本書では印刷の間違いや生産時の変更のために記載事項が一部実機と異なっている場合がございます。

スノーモビルに精通するまでは、保守をおこなう場合はあらかじめお買い求めのヤマハ販売店にご相談ください。本書に記載された以外の保守や整備に関する情報については、お近くのヤマハ販売店でサービスマニュアルをお買い求めください。

目次

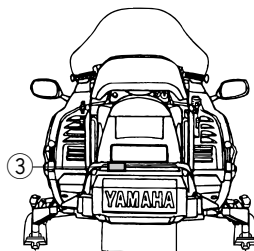
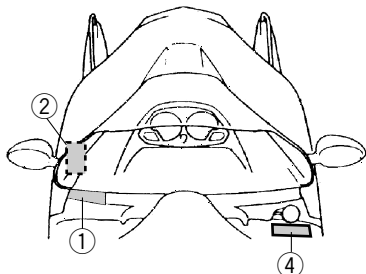
⚠重要ラベル 5
⚠安全にご使用するにあたって 7
● 運転の前に 7
● 運転 8
● 保守と保管 9
各部の名称 11
コントロール機能（各部の機能） 13
● メインスイッチ 13
● スターターレバー（チョーク） 14
● スロットルレバー 14
● スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.) 15
● オイルレベル警告灯 16
● エンジンストップスイッチ 16
● ブレーキレバー 16
● パーキングブレーキレバー 17
● シフトレバー 17
● ヘッドライトビームスイッチ 18
● グリップウォーマーコントロールノブ 18
● パッセンジャグリップウォーマースイッチ 18
● トリップメータリセットノブ 18
● シュラウドラッチ 19
● ドライブガード 19
● Vベルトホルダー 19
● スパークプラグホルダー 20
● バックレスト 20
● 物入れ 20
● リヤキャリヤ 20
使用前の点検 21
● 燃料 21
● エンジンオイル 22
● スロットルレバー 22
● リコイルスタータ 22
● スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.) 23
● ブレーキ 24
● ブレーキ液漏れ 24
● Vベルト 25
● ドライブガード 25
● トラック 25
● スライドランナー 26
● スキー、スキーランナー 26
● ステアリング系 27
● ライト類 27
● バッテリー 27
● 取付金具、ボルト類 28
● 携帯工具とスペアパーツ 28
操作方法 29
● エンジンの始動 29
● 緊急エンジン始動 30
● 慣らし運転 31
● スノーモビルの乗り方 31
● スノーモビルをよく知ろう 31
● スノーモビルの乗り方を学ぼう 31
● 発進、加速 32
● ブレーキをかける 32
● 曲がる 32
● 坂を上る 33
● 坂を下る 33
● 勾配を横断する 34
● 氷の上、凍結面 34
● 圧雪 34

● 雪、氷以外の表面上での運転 35
● トラックを長持ちさせるには 36
● 走行 37
● エンジン停止 38
● 輸送 38
定期点検 39
● 定期点検表 39
● 携帯工具 43
● スパークプラグの点検 43
● エンジンアイドリング回転数の調整 44
● スロットルケーブルの調整 45
● オイルポンプケーブルの調整 45
● キャブレタの調整 46
● 高地使用のための調整 48
● ファンベルトデフレクションの点検 49
● Vベルトの交換 49
● ドライブチェーンハウジング（オイルレベル/テンション）の点検 52
● ブレーキの点検 53
● パーキングブレーキの点検 54
● ブレーキフルードのレベル点検 55
● ブレーキフルードの交換 55
● サスペンションの調整 56
● トラックの調整 58
● スキーのアライメント調整 61
● ハンドルバーの調整 61
● グリスの塗布 62
● ヘッドライトバルブの交換 63
● ヘッドライトビームの調整 64
● バッテリーの点検 64
● ヒューズの交換 65
トラブルシューティング 66
保管方法 68
● エンジン 68
● 燃料の抜き取り 68
● 車体 68
● バッテリー 68
仕様諸元 69
配線図 71
お客様ご相談窓口のご案内 73
索引（さくいん） 75

⚠重要ラベル

商品の安全な取り扱いのために、本体に貼付られている「ラベル」をお読みいただきラベルの指示に従ってください。

要　点

各重要ラベルは常に手入れをおこない、破れたりはがれたりした場合はヤマハ販売店に相談して、直ちに新しいものと交換してください。

①

⚠　警　　告　　8DY-J0

安全な運転のために次の事項を必ずお守り下さい。
- 運転前に“取扱説明書”および全ての“ラベル”を良く読み、熟知してからご使用下さい。
- 運転はスノーモビル運転に熟達した人の指導のもとで行って下さい。
- この車は一般道路は走行出来ません。（オフロード車）
- エンジン始動前にスロットルレバー、ブレーキレバー、ハンドル等が正常に作動することを確認して下さい。
- “パーキングブレーキ”をロックしてからエンジンを始動して下さい。また、走行前にはロックを解除して下さい。
- 緊急時のエンジン停止は“エンジンストップスイッチ”を押して下さい。
- “ドライブガード”や“Vベルト”を外したままでエンジンを始動しないで下さい。
- 燃料給油はエンジンを停止してから行い、給油後は“タンクキャップ”を確実に閉めて下さい。
- “ヘルメット”“ゴーグル”“手袋”“防寒具”等を装着して運転して下さい。
- 運転前にシフトレバーの位置（前進又は後進）を確認して下さい。

②

⚠　警　　告

このドライブガード及びVベルトをはずしたままで、エンジンを始動しないで下さい。

8BD-77762-21

③

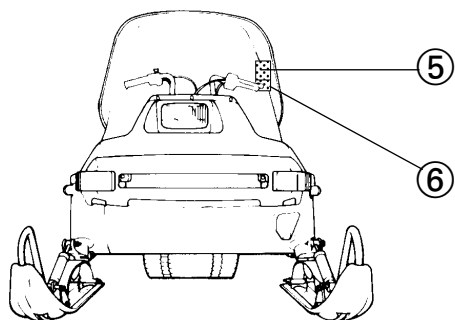
積載の制限

20kg

YAMAHA　　4KN-24877-C0

④

- 車両が完全に停止した状態でブレーキレバーを握ってから操作して下さい。
- エンジンがアイドリング回転又は、停止の状態で操作して下さい。
- シフトレバーを下に押しながら操作して下さい。

8DM-J0

⑤

ご使用上の注意

1. 走行前　確実に取り付けてあるかガタ付きがないか点検してください。
2. スクリーンの清掃は　キズを付けないように　柔かい布かスポンジを用いて中性洗剤と水で洗ってください。洗剤を使った後は洗剤をよく落としてください。
3. スクリーンのヒビ割れしたものは使用しないでください。

ご注意

スクリーンへ　アルカリ性及び強酸性のクリーナー,ガソリン,ブレーキ液その他溶剤等を付けないでください。

80V-2835Y-90

⑥

注　　意

- スクリーンにアルカリ性及び酸性のクリーナー、ガソリン、ブレーキ液等が付着するとヒビ割れ等の原因になります。
- 清掃は中性洗剤で行ってください。

5GJ-10

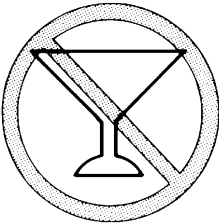
⚠ 安全にご使用するにあたって

スノーモビルに乗る時は、安全のため次の事項をよく理解し活用してください。これらの事項が守られなかった場合、重傷を負う、あるいは死亡に至る恐れがあります。

運転の前に

851-005

1. スノーモビルを運転する前に取扱説明書とラベル全部を読んでください。運転に関係するコントロール部位やその機能をすべて十分に理解してください。不明な点がありましたらヤマハ販売店にご相談してください。

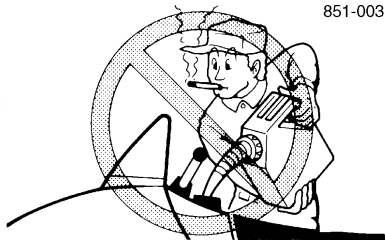
2. このスノーモビルは公道を走れるようには作られていません。公道の走行は法律で禁止されており、公道を走ると他の車両と衝突する恐れがあります。

851-006

3. アルコール類やドラッグを飲んで運転しないでください。アルコールやドラッグは運転者の運転能力を低下させます。

4. 安全走行のため、またスノーモビルの適切な手入れのため、エンジンを始動する場合は必ず 29ページに記載された使用前の点検をおこなってください。エンジンを始動させる前にスロットル、ブレーキ、ハンドルの動作を点検してください。スロットルレバーがスムーズに動き、放すと元の位置に戻ることを確認してください。

5. エンジンを始動する時はあらかじめパーキングブレーキをかけてください。走行時はパーキングブレーキをかけたままでスノーモビルを走らせないでください。ブレーキディスクが過熱してブレーキ能力を低下させる恐れがあります。

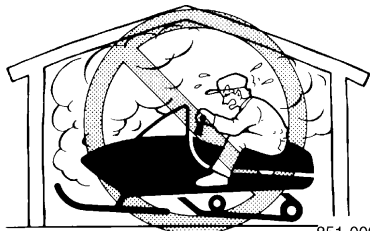
6. スノーモビルを始動、点検あるいは調整する時は、後ろに人が誰もいないことを確認してください。破損したトラックやトラック固定具、あるいはトラックがはね上げた小石が、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。

851-003

7. 燃料は引火性が高いので注意して取り扱ってください。
   - エンジン起動時あるいは熱い時は、絶対に燃料を補給しないでください。走行後の燃料補給は、エンジンを冷ましてからおこなってください。
   - 燃料容器は燃料専用として承認されたものを使用してください。
   - 屋内で燃料補給は絶対におこなわないでください。屋内ではフューエルキャップを絶対に外さないでください。燃料補給は屋外でおこなってください。
   - たばこを吸いながら、あるいは火気の近くでの燃料補給は絶対におこなわないでください。
   - 燃料補給した後はフューエルキャップを確実に閉めてください。こぼれた燃料はただちに拭き取ってください。

8. ガソリンが口に入ってしまった、気化したガソリンを大量に吸い込んでしまった、あるいはガソリンが目に入ってしまった場合は、すぐ医師にかかってください。こぼれたガソリンが皮膚や衣服についた場合は、すぐに皮膚を石鹸と水で洗い、衣類は着替えてください。

851-001

9. 体を保護する衣類を着用してください。認定済のヘルメットとフェースシールドまたはゴーグルを着用してください。またスノーモビル用スーツ、ブーツ、手袋（指でコントロール類の操作ができるもの）を着用してください。

運転

851-002

1. 排気ガスは有害です。スノーモビルを建物に出し入れする場合を除き、屋内ではエンジンはかけないでください。屋内でエンジンをかける時は屋外に通じるドアを開いてください。

2. スノーモビルの走行は慎重におこなってください。雪の下には障害物が隠れていることがあります。前の人が走行したトレールをたどって走行すれば危険を最小限にとどめることができます。トレールから外れる時はゆっくり走行してください。岩や切り株にぶつかったり、ワイヤに引っかかったりすると事故や負傷のもとになります。

3. このスノーモビルは雪または氷の表面を走るように設計されています。泥、砂、ガラス、岩、露出した舗装の上を走行すると制御不能となったり、あるいはスノーモビルを傷つけてしまうことがあります。

4. 泥や砂が大量に混ざっている氷上や雪上で運転しないでください。このような条件下での運転はスキーランナー、トラック、スライドランナー、ドライブスプロケットを傷めたり、磨耗を早めます。

5. 走行時は、必ず他のスノーモビルと一緒に行動してください。もし燃料がなくなったり、事故にあったり、あるいはスノーモビルが傷ついたりした場合に助けが必要になるからです。

6. 氷や圧雪などでは停止距離が通常より長くなります。そのような場合は、先を見通して早めに減速してください。正しいブレーキとは、スロットルを放してから、ブレーキを徐々にかけることです。急ブレーキをしてはいけません。

保守と保管

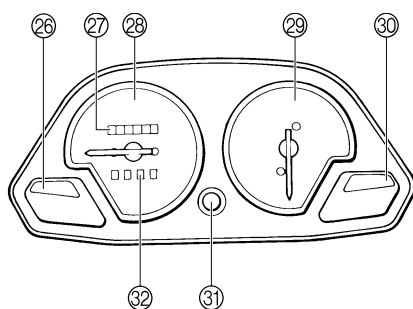
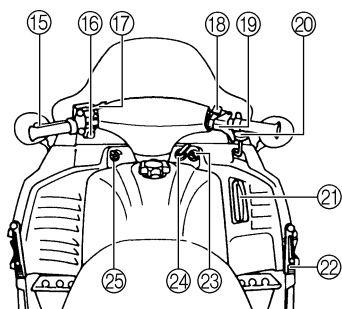
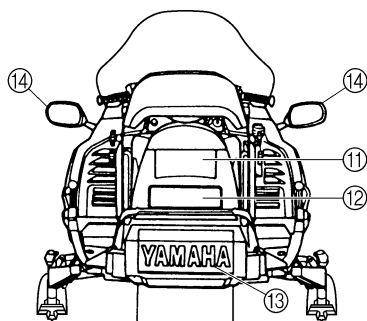
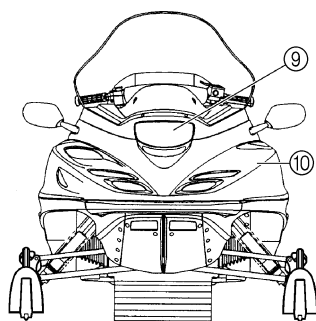
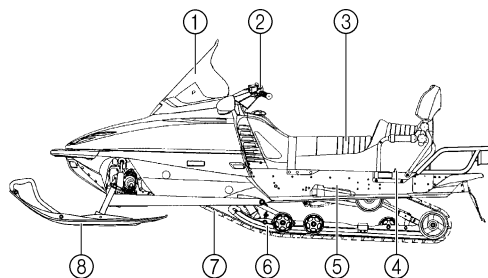
1. スノーモビルを長期間保管する場合は、左側を下にして置かないでください。さもないと燃料ブリーザホースから燃料が漏れることがあります。

2. スノーモビルを改造したり、純正部品を取りはずした場合は、スノーモビルを安全に走行させることができなくなりますので乗員が重大な負傷を負う恐れがあります。また、改造したスノーモビルの使用は法律違反になります。

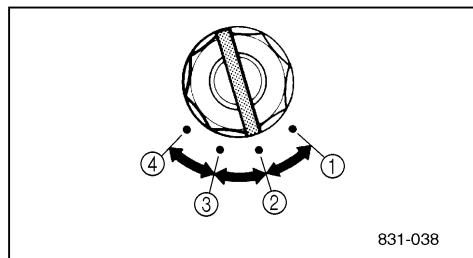
3. 給湯器、ヒーター、乾燥機など、火気や火花などの発火源がある建物内では、絶対に燃料タンクに燃料を入れたままスノーモビルを保管しないでください。閉鎖された場所にスノーモビルを保管する場合は、エンジンが冷えてからにしてください。

4. スノーモビルを長期間保管する場合は、必ず「保管方法」の項を参照してください。

5. 重要ラベルは常に手入れをおこない、破れたりはがれたりした場合は販売店に相談して、直ちに新しいものと交換してください。

各部の名称

① ウィンドシールド
② ステアリングハンドルバー
③ シート
④ パッセンジャグリップウォーマースイッチ
⑤ フレーム
⑥ スライドレールサスペンション
⑦ トラック
⑧ スキー
⑨ ヘッドライト
⑩ シュラウド
⑪ 物入れ
⑫ テール/ブレーキライト
⑬ スノーフラップ
⑭ スライドミラー
⑮ ブレーキレバー
⑯ ヘッドライトビームスイッチ
⑰ パーキングブレーキレバー
⑱ エンジンストップスイッチ
⑲ スロットルレバー
⑳ シフトレバー
㉑ スターターハンドル
㉒ シュラウドラッチ
㉓ メインスイッチ
㉔ スターターレバー
㉕ グリップウォーマーコントロールノブ
㉖ ハイビームインジケータライト
㉗ オドメータ
㉘ スピードメータ
㉙ タコメータ
㉚ オイルレベル警告灯
㉛ トリップメータリセットノブ
㉜ トリップメータ

ESU00013
コントロール機能（各部の機能）

ESU00016
メインスイッチ
メインスイッチには次のような制御機能があります。

①“OFF”
点火回路をオフにします。
キーはこのポジションでのみ抜くことができます。
②“ON”
点火回路をオンにします。
エンジンの始動が可能になります。
③“WARMER”
グリップ/サムウォーマー回路をオンにします。
点火回路もオンになり、エンジンが始動可能になります。

要　点

エンジンがを始動させるとハンドルバーグリップとスロットルレバーは電気で加熱されます。

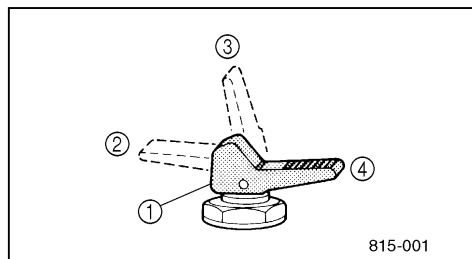
④“START”
始動回路をオンにします。
スターターモータが始動します。

⚠注　意

エンジンが始動したらすぐにスイッチを放してください。

要　点

エンジンが始動するとヘッドライト、メーターライト、テールライトが点灯します。

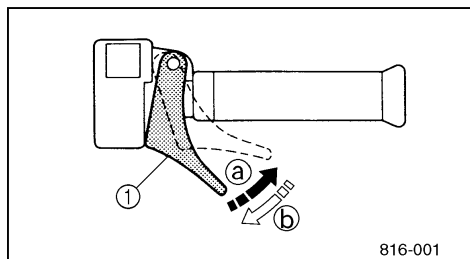
ESU00201

スターターレバー（チョーク）

スターターレバー（チョーク）は冷えているエンジンを始動して暖機運転する場合に使用します。

① スターターレバー（チョーク）
② 冷えているエンジンを始動する場合
③ 暖機運転の場合
④ エンジンが暖まっている場合

要　点

「エンジンの始動方法」の項に操作方法が解説してあります。

ESU00022

スロットルレバー

⚠警　告

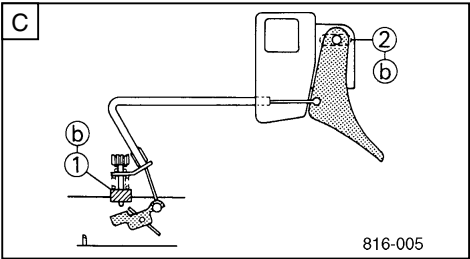
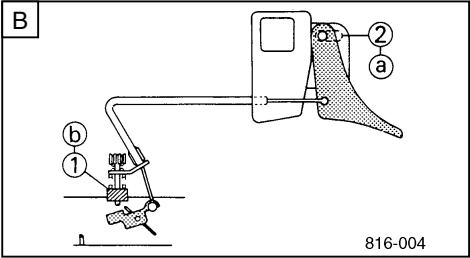
エンジンを始動する前に、スロットル、ブレーキ、ハンドルが適切に動作することを確認してください。

エンジンがアイドリング時にⓐ方向に、スロットルレバー①を動かすとエンジンの回転が上がり、駆動系につながります。
スロットル位置を変えてスノーモビルの速度を制御します。
スロットルはスプリングの力で押されていますので、スロットルを放すとⓑ方向にスロットルレバーが動き、スノーモビルは減速し、エンジンはアイドル状態に戻ります。

ESU00252

スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.)

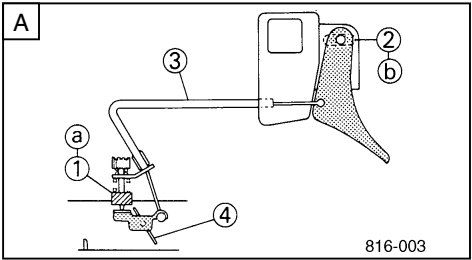
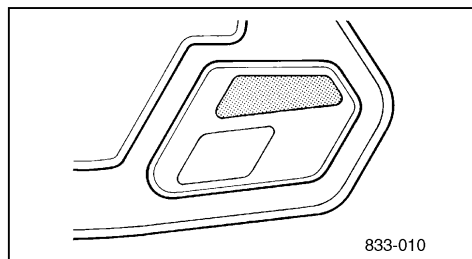
運転中にキャブレターケーブルまたはスロットルケーブルの動作が不具合になった場合、スロットルレバーを放すとT.O.R.S.が動作します。
T.O.R.S.は、レバーを放してもキャブレターがアイドル位置にもどらなかった場合に点火を中断してエンジンを停止させるよう設計されています。

T.O.R.S.が起動した場合は、不具合の原因が解消され、エンジンが不具合なしに動作することを確認した後で再度エンジンを始動してください。

装置 ＼ モード	A アイドリング/始動	B 走行	C トラブル発生
スロットルスイッチ	オフ	オン	オフ
キャブレタースイッチ	オン	オフ	オフ
エンジン	回転	回転	停止

A アイドリング/始動
B 走行
C トラブル発生
① キャブレタースイッチ
② スロットルスイッチ
③ スロットルケーブル
④ スロットルバルブ
ⓐ オン
ⓑ オフ

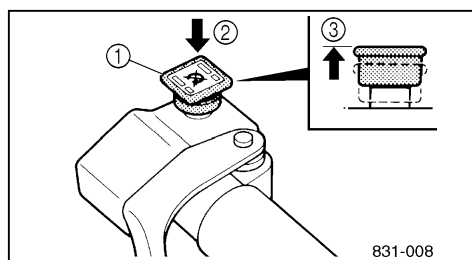
ESU00026

オイルレベル警告灯

833-010

オイルレベルが下限に達していない場合、このライトが点灯します。
このライトが点灯したら、できるだけ早くエンジンオイルをオイルタンクに補充してください。

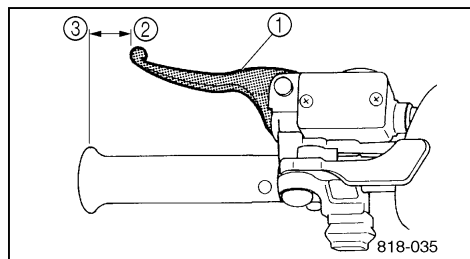
ESU00031

エンジンストップスイッチ

831-008

エンジンストップスイッチ①は緊急時にエンジンを停止させるために使用します。ストップスイッチを押す②とすぐエンジンは停止します。エンジンを始動するには、ストップスイッチを戻して③からエンジン始動の手順をおこなってください。
(詳細については29ページを参照ください。)
初めての走行時に何回か停止スイッチを使って練習し、緊急時にもすばやく対応できるようにしてください。

ESU00032

ブレーキレバー

818-035

スノーモビルの停止は、駆動系全体にブレーキをかけておこなわれます。
スノーモビルを停止させるには、ブレーキレバーをグリップ方向に引いてください。

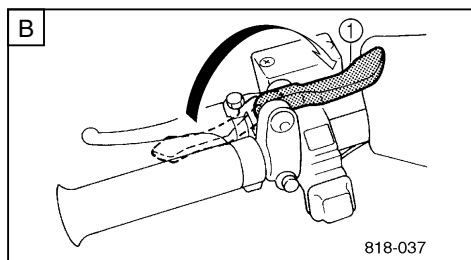
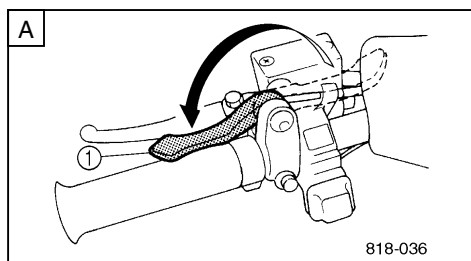
① ブレーキレバー
② ブレーキレバーの端
③ ハンドルバーの端

注　意

ブレーキレバーの端はハンドルバーの端より外に突出させないでください。そうすれば、スノーモビルを横にかたむけた場合もブレーキレバーを傷めません。

要　点

ブレーキレバーを操作するとブレーキライトが点灯します。

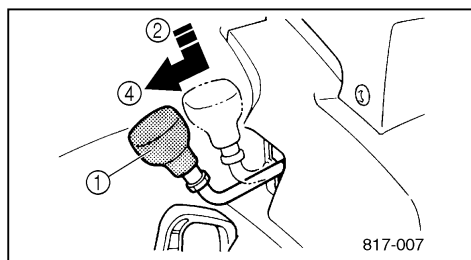
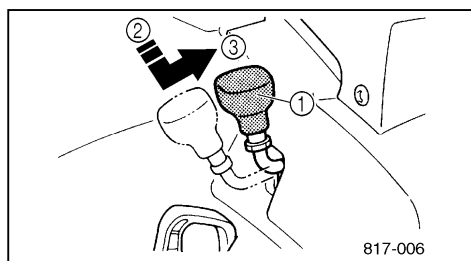
ESU00035

パーキングブレーキレバー

スノーモビルを駐車したり、あるいはエンジンを始動する場合にパーキングブレーキレバー①を左に倒してパーキングブレーキをかけてください。
パーキングブレーキレバー①を右に倒すとパーキングブレーキは解除されます。

A パーキングブレーキをかける
B パーキングブレーキを解除する

⚠警　告

- **エンジンを始動する時は必ずパーキングブレーキをかけておいてください。**
- **パーキングブレーキをかけたまま、スノーモビルを走らせないでください。ブレーキディスクが過熱してブレーキ能力を低下させる恐れがあります。**

ESU00322

シフトレバー

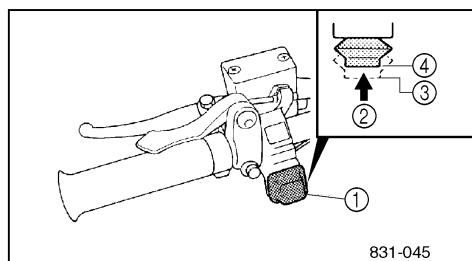
シフトレバーはスノーモビルの前進、後退を切り換えるのに使用します。スノーモビルが完全に停止してからシフトレバーを押し下げて目的の進行方向に入れてください。

① シフトレバー
② 押し下げる
③ “FWD”に入れる
④ “REV”に入れる

	スノーモビルの動き
“FWD”	前進
“REV”	後退

⚠注　意

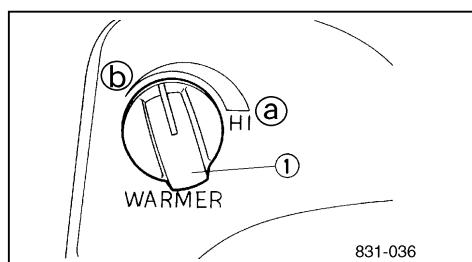
スノーモビルが動いているときは“FWD”から“REV”へ、あるいは“REV”から“FWD”に切り換えないでください。駆動系が損傷する恐れがあります。

ESU00039

ヘッドライトビームスイッチ

ヘッドライトビームスイッチを押すとヘッドライトビームのハイとローが切り換わります。

① ヘッドライトビームスイッチ
② 押す
③ ハイビーム
④ ロービーム

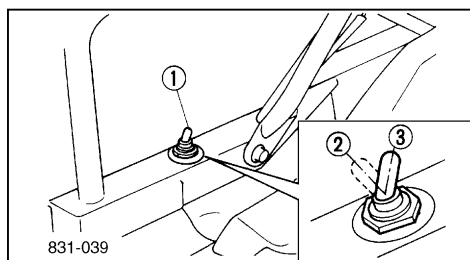
ESU00041

グリップウォーマーコントロールノブ

グリップウォーマーコントロールノブは、メインスイッチが“WARMER”位置にある場合にハンドルバーグリップとスロットルレバーの温度を制御します。

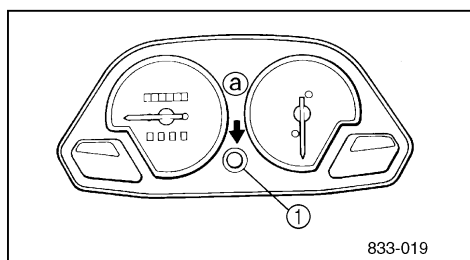
① グリップウォーマー・コントロールノブ

ノブの位置	グリップウォーマーの温度
時計回り方向に回す ⓐ	温度上昇
反時計回り方向に回す ⓑ	温度低下

ESU00300

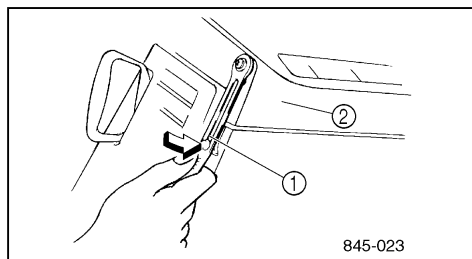
パッセンジャグリップウォーマースイッチ

パッセンジャーグリップウォーマースイッチは、パッセンジャーグリップのヒーターを制御します。

① パッセンジャグリップウォーマースイッチ
② オン
③ オフ

ESU00047

トリップメータリセットノブ

トリップメータリセットノブはトリップメータをリセットするのに使用します。

① トリップメータリセットノブ
ⓐ 押す

ESU00481

シュラウドラッチ

シュラウドを開くには、シュラウドラッチのフックをはずし、シュラウドをゆっくりといっぱいに持ち上げます。シュラウドを閉じるには、シュラウドをゆっくりと下げてもとの位置まで戻し、シュラウドラッチのフックをかけます。

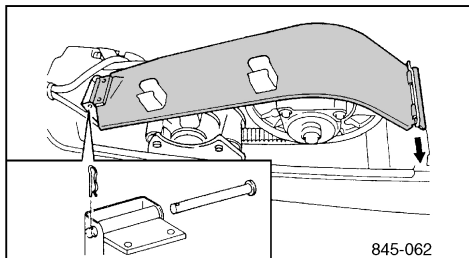
① シュラウドラッチ
② シュラウド

⚠警　告

- **シュラウドラッチのフックがかかっていない状態、あるいはシュラウドをはずした状態でスノーモビルを運転しないでください。**
- **シュラウドを開いて整備をおこなう時は、回転部位から体と衣服を遠ざけてください。**
- **運転中または運転直後の熱くなったマフラーやエンジンに接触しないでください。**

⚠注　意

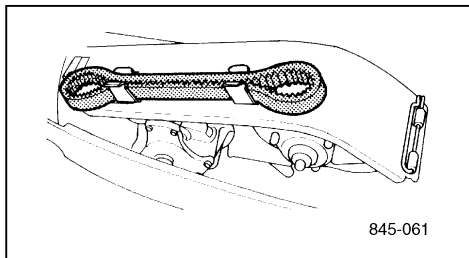
シュラウドを閉じる時はケーブルとワイヤすべてを確実にもとの位置に戻してください。

ESU00521

ドライブガード

ドライブガードは、Vベルトクラッチや Vベルトのカバーです。部品が破断したり、ゆるんだりした場合に備えます。

⚠警　告

- **スノーモビルを運転する時は、あらかじめドライブガードがしっかりと締まっていることを確認してください。**
- **Vベルトやドライブガードをはずしたまま絶対にエンジンを回転させないでください。**

ESU00053

Vベルトホルダー

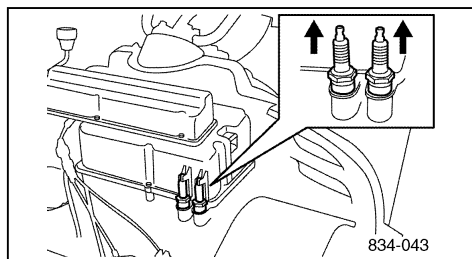
予備のVベルトを緊急時のために用意し、Vベルトホルダーにしまっておいてください。

⚠注　意

予備のVベルトはホルダーにしっかりと固定してください。

ESU00056

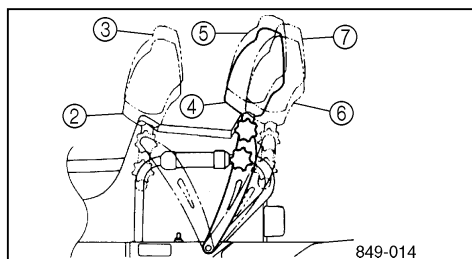
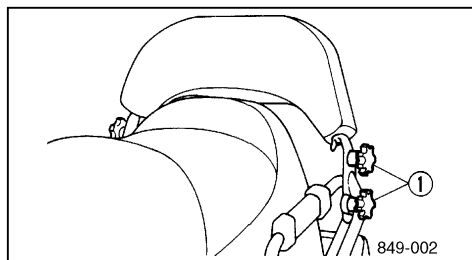
スパークプラグホルダー

834-043

予備のスパークプラグを緊急時のために用意し、スパークプラグホルダーにしまっておいてください。

ESU00301

バックレスト

849-002

849-014

バックレストは調整可能です。
取付ボルト①をはずし、バックレストの位置を調整してください。

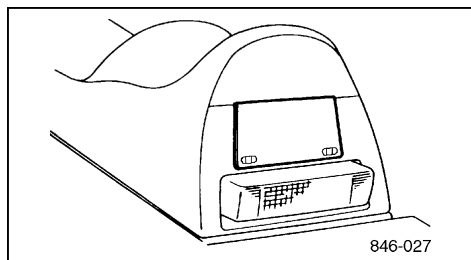
⚠警　告

バックレストを調整した後、取付ボルトがしっかりと締まっていることを確認してください。

バックレストの位置：
② フロントポジション 1
③ フロントポジション 2
④ リアポジション 1
⑤ リアポジション 2
⑥ リアポジション 3
⑦ リアポジション 4

ESU00068

物入れ

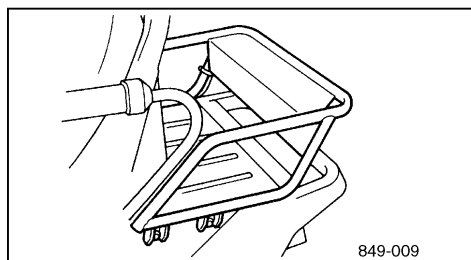
846-027

物入れには整備工具、予備部品、その他の細々としたものを収納することができます。

ESU03981

リヤキャリヤ

849-009

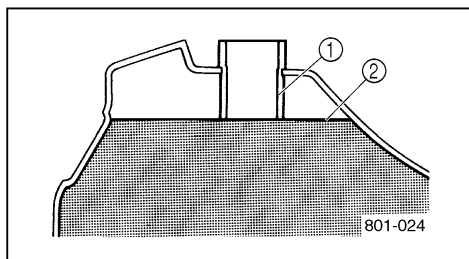
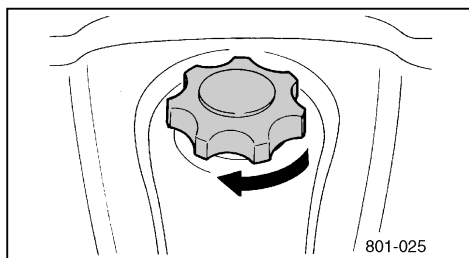
耐荷重：
20 kg

ESU00072

使用前の点検

要　点

スノーモビルを使用するたびに使用前の点検をおこなってください。

⚠警　告

エンジンが回転した直後は、エンジンとマフラーは大変熱くなっています。
点検や修理をおこなう時、エンジンやマフラーがまだ熱いうちは体や衣服を接触させないでください。

ESU03793

燃料

燃料タンクには燃料を十分に入れておいてください。

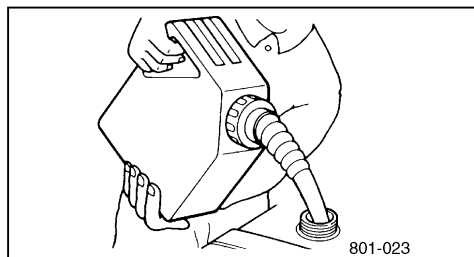
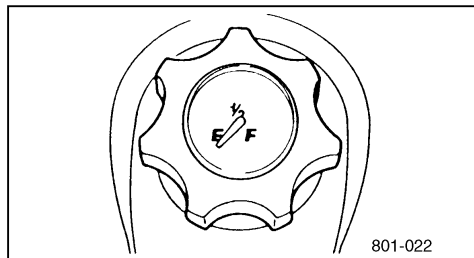
801-022

801-023

推奨燃料：
　無鉛レギュラーガソリン

801-024

① フィラーチューブ
② 燃料のレベル

801-025

⚠警　告

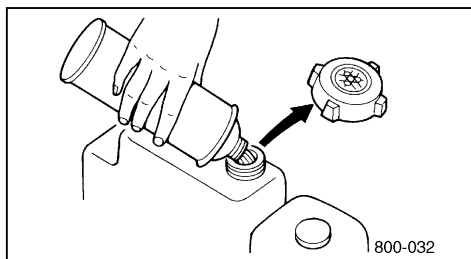
- **燃料は引火性が高く、有毒です。燃料を補給する前に「安全にご使用するにあたって」の項をよくお読みください。(7～9ページ)**
- **燃料タンクに燃料補給する時は、フィラーチューブの底より上まで入れないでください。スノーモビルが傾いた場合やあるいは周囲の温度上昇により、燃料温度が上がることで燃料容積が増加すると燃料がこぼれだすことがあります。**
- **燃料を補給した後はフューエルキャップを確実に閉めてください。燃料が漏れると引火する恐れがあります。**

⚠注　意

- **燃料補給する時、雪や氷が燃料タンクに入らないよう気をつけてください。**
- **燃料タンクには指定ガソリンを入れてください。**

ESU00083

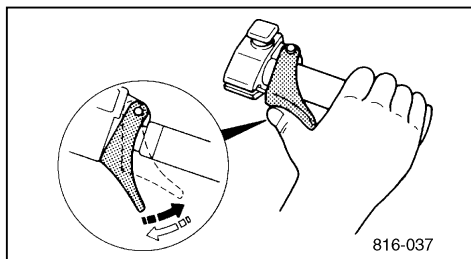
エンジンオイル

800-032

オイルタンクにはオイルを十分に入れておいてください。

オイルタンク容量：
3.3 L
推奨オイル：
ヤマハスノーオイルスーパー

ESU00087

スロットルレバー

816-037

エンジンを始動する前に、スロットルレバーの動作を確認してください。
スロットルレバーがスムーズに動き、放すとスプリングの力で元の位置に戻ることを確認します。

ESU00088

リコイルスタータ

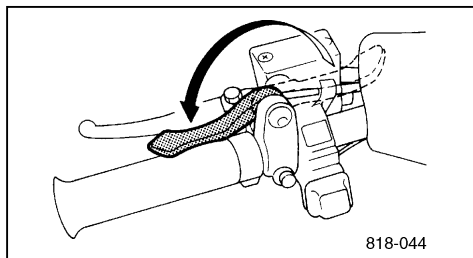
815-005

リコイルスタータが適切に動作するか、リコイルスタータロープに損傷がないかを点検してください。

ESU00089

スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.)

T.O.R.S.が適切に動作するか点検してください。

818-044

⚠警　告

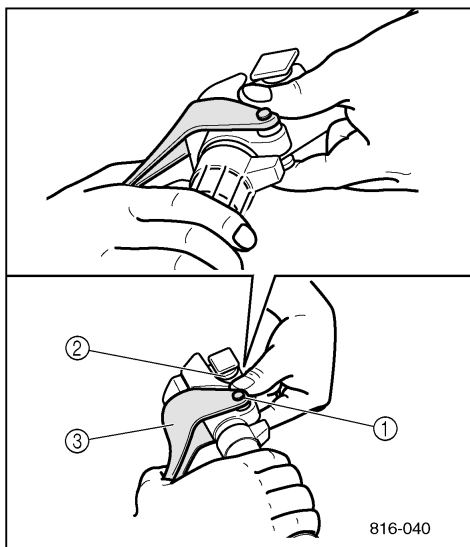
T.O.R.S.を点検する時は：

- **パーキングブレーキを確実にかけておいてください。**
- **スロットルレバーがスムーズに動作することを確認してください。**
- **クラッチがつながる回転数までエンジンを回転させないでください。クラッチにつながるとスノーモビルが突発的に前進し、事故を起こす恐れがあります。**

1. エンジンを始動させます。

要　点

「エンジンの始動」の項を参照。

816-040

2. スロットルレバーの回転軸①とエンジンストップスイッチハウジング②の間を親指と人指し指で挟み（上図）スロットルスイッチから離します（下図）。
   この状態を保ったままスロットルレバー③を徐々に押します。
   T.O.R.S.が動作し、エンジンがただちに停止します。

⚠警　告

エンジンが停止しなかった場合は、メインスイッチを“OFF”位置にしてエンジンを止めて、ヤマハ販売店にご相談ください。

ESU00091

ブレーキ

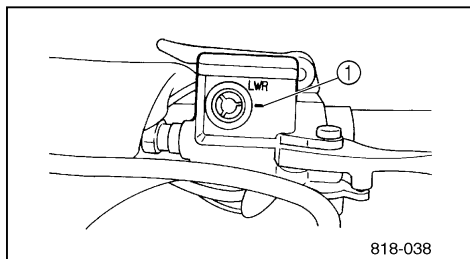
1. ブレーキレバー
   低速運転でブレーキテストして適切にブレーキが動作することを確認してください。ブレーキ性能が適正でなかった場合、ブレーキの磨耗、あるいはブレーキ液の漏れを点検してください。(詳細については55ページを参照ください。)

⚠警　告

- **ブレーキレバーを握った時にやわらかくスポンジのような感触を感じた場合、ブレーキ系に故障があります。**
- **ブレーキ系に故障がある場合は、スノーモビルを運転しないでください。ブレーキがかからずに事故を起こす恐れがあります。ヤマハ販売店にブレーキ系の点検と修理を依頼してください。**

⚠注　意

ブレーキレバーの端はハンドルバーの端より外に突出させないでください。そうすれば、スノーモビルを横にかたむけた場合もブレーキレバーを傷めません。

2. ブレーキ液
   ブレーキ液レベルを点検します。(55ページを参照ください。)
   必要ならばブレーキ液を補充します。

① "Lower" レベル

指定ブレーキ液：DOT 4

ESU00093

ブレーキ液漏れ

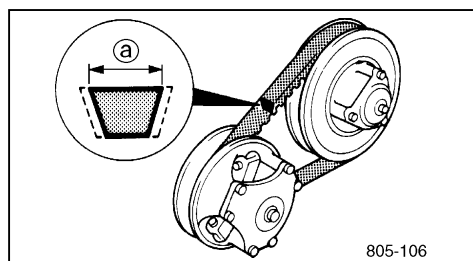
ブレーキを数分間かけたままにします。ブレーキホースの接続部、またはマスターシリンダからブレーキ液が漏れていないかを点検します。

⚠警　告

もしブレーキ液の漏れが見つかった場合は、ヤマハ販売店にすぐ修理を依頼してください。

⚠注　意

ブレーキ液は塗装面やプラスチック部品を劣化させることがあります。ブレーキ液をこぼさないでください。こぼれた場合は、すぐに洗浄してください。

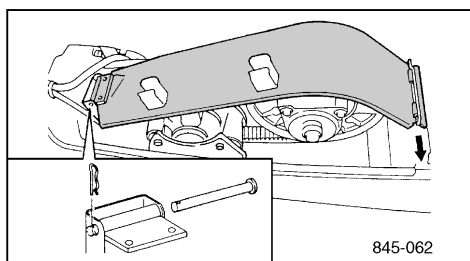
ESU00941

Vベルト

シュラウドを開きドライブガードをはずします。Vベルトに磨耗や損傷がないかを点検してください。必要ならば交換してください。

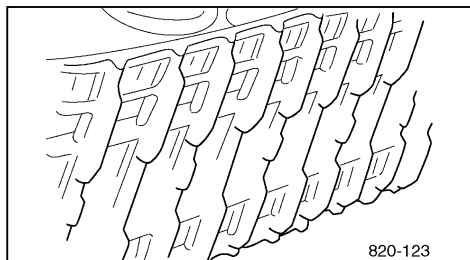
磨耗限度ⓐ：33 mm

⚠警　告

- **スノーモビルを運転する時は、あらかじめドライブガードがしっかりと締まっていることを確認してください。**
- **Vベルトやドライブガードをはずしたまま絶対にエンジンを回転させないでください。**

ESU00096

ドライブガード

ドライブガードの取付部に損傷がないか点検します。ドライブガードがしっかりと固定されていることを確認してください。

ESU00097

トラック

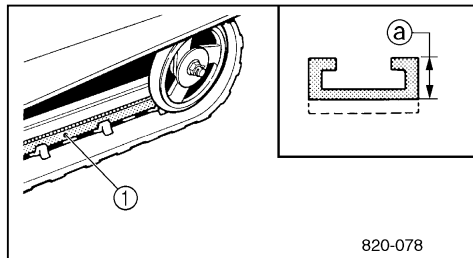
トラックを点検して、弛み、磨耗、損傷がないか調べます。
必要ならば調整または交換してください。
(詳細については58ページを参照ください。)

⚠警　告

トラックに損傷または調整不良が見つかった場合、スノーモビルは運転しないでください。トラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われるため、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

ESU00982

スライドランナー

スライドランナーに磨耗や損傷がないか点検してください。
スライドランナーが磨耗限度に達していたなら交換してください。

① スライドランナー
ⓐ 磨耗限度

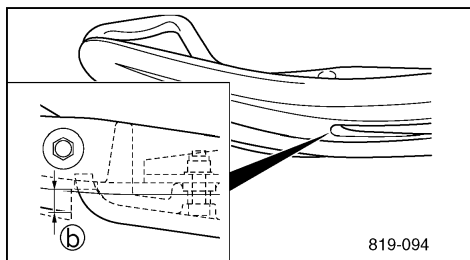
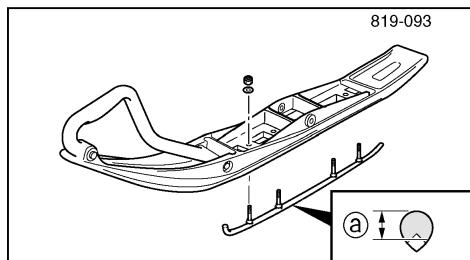
磨耗限度の高さⓐ：10 mm

⚠注　意

なるべく新雪の上を走行するようにしてください。氷や圧雪で運転するとスライドランナーが早く磨耗します。

ESU00102

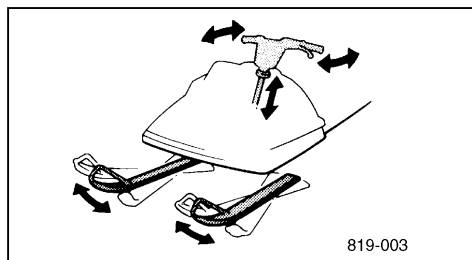
スキー、スキーランナー

スキーとスキーランナーに磨耗や損傷がないか点検してください。必要ならば交換してください。

スキーランナーの磨耗限度ⓐ： 8 mm スキーの磨耗限度ⓑ： 13 mm

⚠注　意

荷物の積み下ろし時や雪が少ない場所での走行、あるいはコンクリート、縁石などの上を走行する場合にスキーにひっかき傷をつけないでください。傷はスキーを磨耗あるいは損傷させます。

ESU00103

ステアリング系

819-003

ハンドルバーを点検して遊びが多すぎないかを調べてください。

1. ハンドルバーを上下、前後に押してみます。
2. ハンドルバーを少しだけ左右に振ってみます。

遊びが多すぎるようならヤマハ販売店にご相談ください。

ESU00105

ライト類

832-032

ライト類を点検します。
バルブが切れていたら交換してください。

⚠注　意

スクレーパや湯でプラスチックレンズ①を清掃しないでください。

ESU00302

バッテリー

830-007

バッテリー液レベルを点検し、必要ならば補充します。
補充が必要な場合、蒸留水以外は使わないでください。(詳細については64ページを参照ください。)

ESU00110

取付金具、ボルト類

取付金具とボルト類がしっかり締まっているか点検してください。
必要ならば適切な手順で指定トルク値に従って増し締めしてください。

ESU00111

携帯工具とスペアパーツ

スノーモビルを走らせる時に携帯工具、スペアパーツ、その他の必要な装備を携行するのは良い習慣です。必要になった場合に簡易な修理ならできるでしょう。
下記のものは常に物入れに入れておいてください。

- 携帯工具
- 懐中電灯
- プラスチックテープ
- スチールワイヤ
- 牽引用ロープ
- 緊急スターターロープ
- Vベルト
- 電球
- スパークプラグ

長距離走行に出かける時は、予備燃料とエンジンオイルも携行してください。

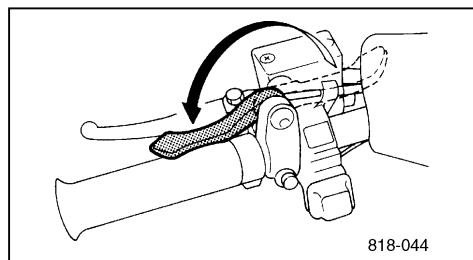
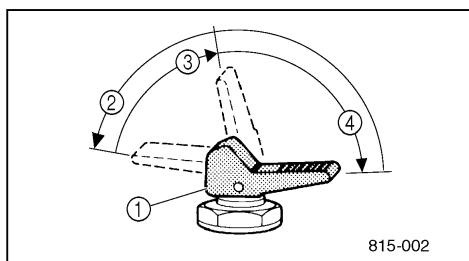
ESU00112
操作方法

ESU00114
エンジンの始動

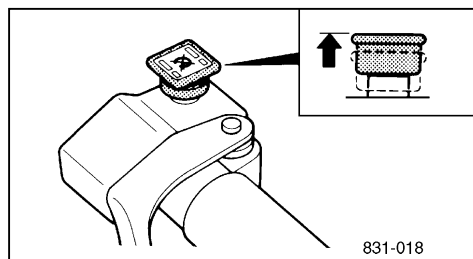
⚠警　告

- エンジンをかける前に必ず「安全にご使用するにあたって」の項をよくお読みください。
- パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。

要　点

エンジンストップスイッチが“ON”位置にあることを確認します。

1. スターターレバー（チョーク）をいっぱいに開きます。

① スターターレバー（チョーク）
② いっぱいに開く（冷えているエンジンを始動）
③ 半分開く（暖機運転）
④ 閉じる（暖まっているエンジンを始動）

要　点

エンジンが暖まっている時はスターターレバー（チョーク）は操作不要です。閉の位置のままにします。

2. メインスイッチを“START”位置にします。エンジンが始動したなら、スターターレバー（チョーク）を半開の位置にします。スターターレバー（チョーク）を閉の位置に戻しても、エンジン回転がばらついてエンジンが止まりそうにならなくなるまで、暖機運転をおこないます。

① “START”

⚠注　意

- **エンジンが始動したらすぐにスイッチを放してください。**
- **エンジンが始動しなかったらスイッチを離し、数秒まって再度スイッチを入れてください。バッテリーの消耗を防ぐため、スイッチを入れる時間はなるべく短くしてください。スイッチを入れてエンジンを回す時間は10秒以内にしてください。**

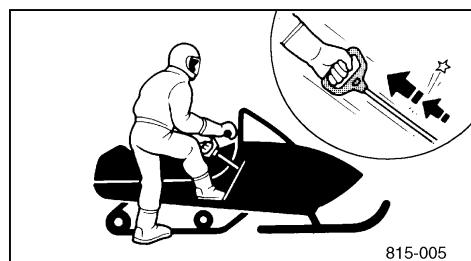
ESU00121

緊急エンジン始動

1. 「エンジンの始動」の手順1をおこないます。
2. メインスイッチを“ON”位置または“WARMER”位置にします。

① “ON”
② “WARMER”

3. リコイルスタータを手応えがあるまでゆっくりと引き、手応えを感じた位置から一気に引っぱります。エンジンが始動したなら、スターターレバー（チョーク）を半開の位置にします。スターターレバー（チョーク）を閉の位置に戻しても、エンジン回転がばらついてエンジンが止まりそうにならなくなるまで、暖機運転をおこないます。

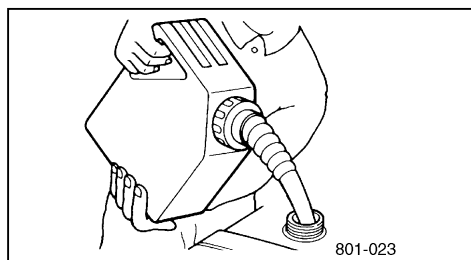
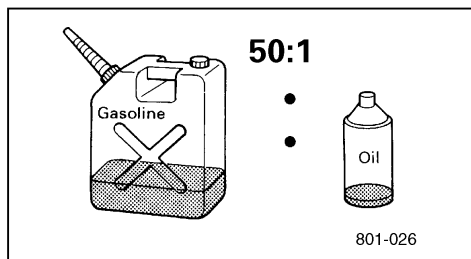
ESU00126

慣らし運転

スノーモービルを使うあいだでならし運転ほど大切な期間はありません。使い初めてから10時間、約200 km走行する間は、エンジンに過度の負荷をかけず、長時間のフルスロットル運転はおこなわないでください。また湿った雪など走行しづらい条件での運転で、エンジンに負担をかけることは避けてください。過剰な振動やノイズなど、異常な状態に気がついたらヤマハ販売店にご相談ください。

要　点

ならし運転を適切におこなうには、初めてスノーモービルの燃料タンクに燃料を入れる時にはガソリンとオイルの混合比50：1の燃料を使用してください。
例：
ガソリン10 L + オイル0.2 L = 混合比50：1
推奨ガソリンについては21ページを、推奨オイルについては22ページを参照ください。

ESU01272

スノーモービルの乗り方

スノーモービルをよく知ろう

スノーモービルはライダーが体で制御する乗り物で、ライディングポジションとバランスがスノーモービル操縦の2大要素です。
スノーモービルの運転には一定期間の練習から得られたスキルが必要です。基本的な操縦方法を学んでから、さらに難しい操縦方法へと進んでください。
新しくお求めになったスノーモービルを運転するのは楽しく、時間を忘れてしまうでしょう。しかし楽しく安全に乗るにはスキルが必要で、スキルを身につけるにはスノーモービルの操作を習熟することが不可欠です。
スノーモービルを運転する前に、まず取扱説明書を熟読し、コントロール類の操作をよく理解してください。

とりわけ7～9ページに記載された「安全にご使用するにあたって」には注意を払ってください。
スノーモービルの車体に貼られた警告ラベル、注意ラベルは全部読んでください。
また製品に付随する「スノーモービル安全ハンドブック」もお読みください。

スノーモービルの乗り方を学ぼう

スノーモービルに乗る時はその前に必ず、39～42ページのリストにある使用前の点検をおこなってください。使用前の点検を実施することで、スノーモービルの安全性や信頼性が高まります。また、体温を保ち、事故の場合も怪我から身を守れるような服装で乗ってください。

たとえ長い運転経験があっても、お買い求めのスノーモービルにはまず低速運転から慣れてください。スノーモービルの扱い方や性能特性を完全に把握するまでは、スノーモービルを高速走行で運転しないでください。

エンジンをかける時はあらかじめパーキングブレーキをかけ、17ページの指示に従ってください。エンジンの暖機運転が完了すると、走行可能な状態になります。

発進、加速

1. アイドリング状態のままでパーキングブレーキを解除します。
2. スロットルをゆっくりとスムーズに開けます。Vベルトクラッチがつながり、発進して加速します。

⚠警　告

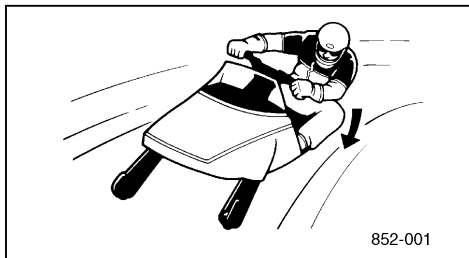
- **運転者はいつも両手をハンドルバーから放さないでください。**
- **ランニングボードの外に足を絶対に出さないでください。**
- **スノーモビルとそのコントロール類に十分習熟するまでは高速走行はしないでください。**

ブレーキをかける

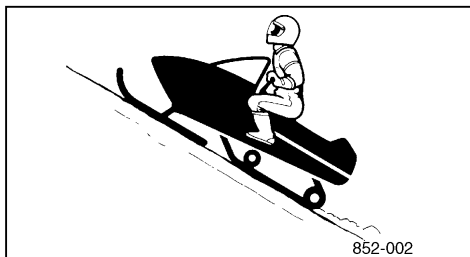
減速または停止する時は、スロットルを放し、ブレーキを徐々にかけます（急にかけてはいけません）。

⚠警　告

- **氷や圧雪などでは停止距離が通常より長くなります。そのような場合は、先を見通して早めに減速してください。**
- **ブレーキのかけ方が悪いとトラックがトラクション（牽引力）を失い、制御能力が低下し、事故を起こす可能性が高まります。**

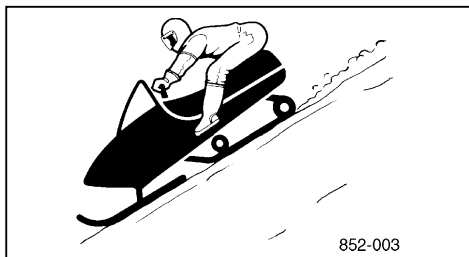
曲がる

雪面では「体を使って」曲がることが大切です。カーブに近づくにしたがって減速し、曲がりたい方向にハンドルバーを徐々に向けます。同時に曲がる方向のランニングボードに体重をかけ、上体を内側に傾けます。

障害物のない広い平らな場所で低速カーブを何度も練習してください。いったんこのテクニックが身につけば、もっと高速できついカーブでも応用できるはずです。きついカーブで速度を上げて、さらに練習を積んでください。
スロットルの急な開閉、強すぎるブレーキ操作、間違った体の動かし方、カーブに対して速すぎる速度など、不適切な運転方法はスノーモビルの転倒の原因となります。
カーブでスノーモビルが転倒しかけたなら、体をさらに内側に傾けてバランスを取り戻してください。必要ならばスロットルをゆっくりと戻し、あるいはハンドルバーを外側に切り戻してください。

坂を上る

まず最初は傾斜のゆるやかな坂で練習します。スキルが上達してから、もっと難しい上り坂を練習してください。
坂に近づくにつれて加速し、上り坂になる前にスロットルを戻してトラックのすべりを防止します。体重は常に坂の上に向けてかけておくことが大切です。体を前に傾けて坂を真っ直ぐに上ります。坂の勾配がきつくなったらランニングボードに足を置いて立ち、ハンドルバーにかぶさるように体を前に倒します。
坂の頂上に近づくにつれて減速し、頂上の向こう側の障害物、急な下り坂、他の乗り物や人を見つけた場合に備えます。途中で坂を上れなくなってもトラックを回転させてはいけません。エンジンを止め、パーキングブレーキをかけます。スノーモビルのリアを引っぱって坂の下までスノーモビルを下ろします。次いで、坂の上側からスノーモビルに乗ります。エンジンを再始動し、パーキングブレーキを解除して坂を下ります。

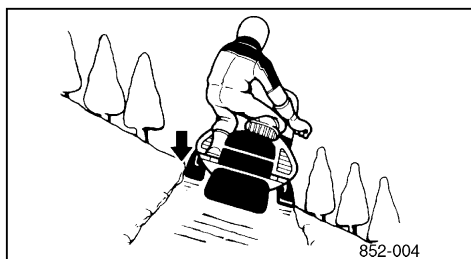
⚠警　告

サイドヒル（丘の横側）や急勾配での走行は初心者には勧められません。

坂を下る

坂を下る時は、最低速度を保ってください。下降中もスロットルを開けて、クラッチをつないでおきます。こうすれば、エンジンブレーキがスノーモビルの減速を助けますので、坂を惰性で下って行かなくなります。ブレーキは軽く頻繁にかけます。

⚠警　告

下りでブレーキをかける時には十分に注意してください。ブレーキを強くかけ過ぎるトラックがロックし、制御不能になります。

勾配を横断する

⚠警　告

勾配の横断は初心者には勧められません。

勾配を横断するには、体重移動をして適切なバランスを維持することが必要です。勾配を横断する時は体重が坂の上側にかかるように体を傾けます。坂の下側の膝をシートに置き上側の足をランニングボードに置く姿勢がよいでしょう。こうすれば必要に応じて体重移動を楽におこなうことができます。
雪や氷は滑りやすいので、スノーモビルが横向きに滑った時に備えておかねばなりません。このような場合、滑った方向にハンドルを切ります。適切なバランスを回復したなら、元の方向に徐々にハンドルを戻します。曲がる時にスノーモビルが転倒しかけたら、坂の下側にハンドルを切ってバランスを取り戻してください。

⚠警　告

適正なバランスが保てずにスノーモビルが転倒しかけたら、ただちにスノーモビルから退避して坂の上側に逃げてください。

氷の上、凍結面

氷の上、凍結面での運転は非常に危険です。転回、停止、発進のためのトラクションが雪よりはるかに小さいからです。

⚠警　告

氷の上、凍結面で運転せざるを得ない時は、ゆっくりと慎重に走行してください。急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。ハンドルさばきは最小限にしてください。制御不能となって転倒する危険が常にあります。

圧雪

圧雪の上は、新雪と比べスキーとトラックのトラクションが小さくなるため操縦がさらに困難となります。急加速、急転回、急ブレーキは避けてください。

雪、氷以外の表面上での運転

雪、氷以外の表面ではスノーモビルを運転しないでください。そのような条件下での運転はスキーランナー、トラック、スライドランナー、ドライブスプロケットを傷めたり、磨耗を早めます。次のような表面ではスノーモビルの運転を絶対におこなわないでください。

1. 泥
2. 砂
3. 岩
4. 草
5. 露出した舗装

この他、次のような表面も、トラック、スライドランナーを長持ちさせるため運転を避けてください。

1. 鏡氷面
2. 多量の泥と砂が混ざった雪

上記の表面はみなトラックとスライドランナーに対して一つの共通点があります。それは潤滑性がほとんどない、あるいは全くないということです。トラックとスライドレール間ではスライドランナーとスライドメタルとの間に潤滑性（雪または水）を必要します。潤滑がうまくおこなわれないとスライドランナーは短期間で磨耗し、ひどい場合には、スライドランナーが溶けてなくなり、トラックに損傷や故障が発生します。

またトラクション増強のためのスタッドや滑り止めなども、トラックの損傷、故障をいっそうひどくする可能性があります。

▲警　告

トラックが損傷・故障するとブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。

- **スノーモビルを運転する時は必ずあらかじめトラックを点検し、損傷、調整不良がないか調べてください。**
- **トラックが損傷していた場合は、スノーモビルは運転しないでください。**

▲注　意

なるべく新雪の上を走行するようにしてください。氷や圧雪の上で運転するとスライドランナーが早く磨耗します。

ESU00251

トラックを長持ちさせるには

トラックのテンション（張力）

ならし運転の期間は、新しいトラックがなじむ過程で伸びが早くなりがちです。トラックのテンションとアライメントの調整を頻繁におこなってください。（調整手順の詳細については58～61ページを参照ください。）

トラックが緩むと、スリップして外れたり、またはサスペンションの部品を噛み込んでしまったりして、重大な損傷をもたらす恐れがあります。

トラックをきつく張り過ぎてもいけません。きつく張り過ぎるとトラックとスライドランナーとの摩擦が増大し、両方の磨耗が早まります。また、サスペンションへの負荷が過大になり、故障の原因となります。

雪が少ない場合

トラックとスライドランナーは雪と水で潤滑・冷却されます。これら部位の過熱を防ぐため、雪が極端に少ない凍結路や、凍結した湖、河で長時間高速走行することは避けてください。トラックの内部が過熱によって、故障や損傷の原因となります。

オフトレール走行

積雪が十分でない場合は、前の人が走行したトレールをはずれた走行は避けてください。岩、倒木など、堆積物を十分に覆うためには、一般に1メートル程の積雪が必要です。積雪が不十分な場合、トラックへの衝撃による損傷を防ぐためオフトレール走行しないでください。

スタッド付きトラック

スタッド付きトラックは一般に短寿命です。トラックにスタッドホールを開けてあるために内部の繊維が切断され、トラックの強度が低下するからです。

トラックを軸に急転回することは避けてください。さもないとスタッドが異物を噛み込んでトラックを引っぱり、強度が低下した部分の周りに裂け目や傷をつける可能性があります。損傷の可能性をできるだけ低くするため、スタッドの植え込みやパターンについては、スタッドメーカーに問い合わせてください。

ヤマハはトラックへのスタッド植え込みを推奨しません。

ESU00319

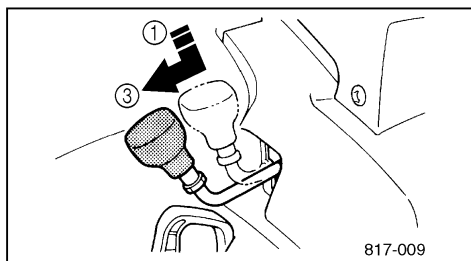
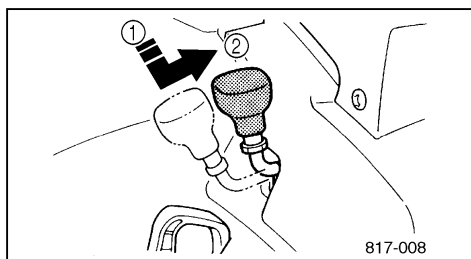
走行

▲警　告

エンジンをかける前に必ず「安全にご使用するにあたって」と「スノーモビルの乗り方」の項をよくお読みください。

要　点

運転を始める前に、エンジンが十分に暖まっていることを確認してください。

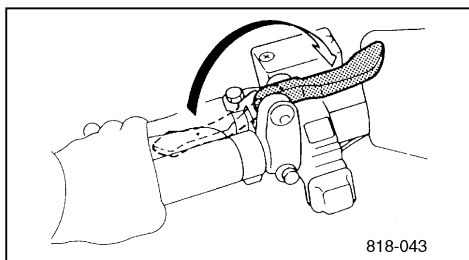
1. シフトレバーを動かして、運転ポジションを選択します。

① 下げる
② “FWD”前進
③ “REV”後退

▲警　告

- **シフト操作は必ず、スロットルレバーを完全に放して、スノーモビルが完全に停止した状態でおこなってください。**
- **シフトレバーを前進または後退に入れる時は必ず、エンジンをアイドリング状態にして、レバーが突き当たるまで入れてください。**
- **後退する時は、スノーモビルの後ろが空いていることを確認してから操作してください。後ろをよく見てください。**
- **後退する時は速度を落とし、急転回は避けてください。**

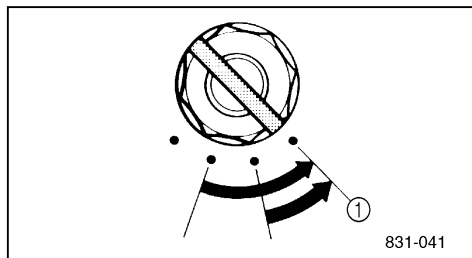
要　点

シフトレバーが「後退」になっている間「リバースブザー」が鳴ります。

2. パーキングブレーキレバーを右に倒してパーキングブレーキを解除します。

3. スロットルレバーをゆっくりと開いてください。スノーモビルが動きだします。
4. ハンドルバーを操作して曲がりたい方向に向けます。
5. ブレーキレバーを引くとスノーモビルは停止します。
6. パーキングブレーキレバーを左に倒してパーキングブレーキをかけます。

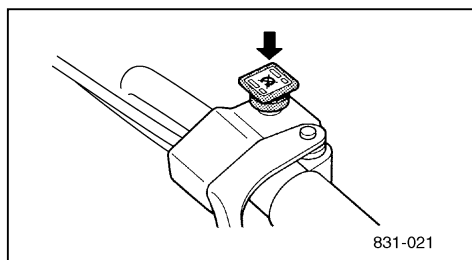
ESU00136

エンジン停止

メインスイッチを“OFF”位置にするとエンジンが停止します。

① “OFF”

⚠警　告

- **エンジンを緊急に停止させる時はエンジンストップスイッチを押してください。**
- **スノーモビルから離れる場合は必ずキーを抜き、スノーモビルが誤って発進しないようにしてください。**

ESU00138

輸送

スノーモビルをトレーラーやトラックで輸送する時は損傷を避けるために、次の注意事項を守ってください。

- 燃料タンク内の燃料レベルをキャブレタの底より低くしないと、輸送中の路面からの振動やショックにより、燃料がキャブレタからクランクケースに流れ込むことがあります。その場合、たまった燃料のためエンジンが始動できない「ハイドロロック」状態が生じます。ハイドロロックはエンジンに重大な損傷を引き起こす恐れがあります。輸送時は、なるべく燃料タンクを空にしてください。輸送時間が30分を超える場合は、必ず燃料タンクは空にしておいてください。
- スノーモビルをトレーラーやトラックで輸送する場合、スノーモビルにカバーをかけて、しっかりと固定してください。カバーは専用設計のものが最善です。カバーをかければ、シュラウドの冷却用空気取入口に異物が入らず、道路の小石がはねてスノーモビルを傷つけることも防げます。
- 道路に融雪剤が撒かれた区域をトレーラーやトラックで輸送する場合、オイルやその他の防護剤を金属製サスペンションの表面に薄く塗ってください。腐食を防ぐ助けになります。目的地に着いたら、必ずスノーモビルを洗浄し、融雪剤をきれいに落としてください。

ESU00139
定期点検

ESU00140
定期点検表
最高の性能を引き出し、安全に運転するために最も大切なのは定期点検です。

点検項目	説明	使用前の点検（毎日）	使用開始から1カ月後または800 km（40時間）走行後	各シーズンごと、または3,200 km（160時間）走行ごと
スパークプラグ	状態を点検。 ギャップの調整と清掃。 必要に応じて交換。			●
エンジンオイル	オイルレベルを点検。	●		
	*必要に応じオイルポンプのエア抜き。			●
燃料	燃料レベルを点検。	●		
*燃料フィルタ	状態を点検。 必要に応じて交換。			●
*燃料ライン	ホースの割れ、損傷の有無を点検。 必要に応じて交換。			●
*オイルライン	オイルホースの割れ、損傷の有無を点検。 必要に応じて交換。			●
キャブレタ	スロットルレバーの動作を点検。	●		
	*ジェットを調整。	運転条件（標高、温度）が変わった時。		
*ファンベルト	磨耗、損傷の有無を点検。 必要に応じて交換。			●
	必要に応じてファンベルトの調整。			●
リコイルスターター	動作とロープの損傷を点検。 *必要に応じて交換。	●		
エンジンストップスイッチ	動作を点検。 *必要に応じて修理。	●		
スロットルオーバーライドシステム (T.O.R.S.)	動作を点検。 *必要に応じて修理。	●		

* この点検項目はヤマハ販売店による整備を推奨します。

点検項目	説明	使用前の点検（毎日）	使用開始から1カ月後または800 km（40時間）走行後	各シーズンごと、または3,200 km（160時間）走行ごと
スロットルレバー	動作を点検。 *必要に応じて修理。	●		
*排気系	漏れの有無を点検。 必要に応じ増し締めまたはガスケット交換。			●
*カーボン除去	必要に応じて除去の頻度を上げる。			●
ドライブガード	割れ、曲がり、損傷の有無を点検。 *必要に応じて交換。	●		
Vベルト	磨耗、損傷の有無を点検。必要に応じて交換。	●		
ドライブトラック、アイドラーホイール	弛み、磨耗・損傷の有無を点検。 *各必要ならば調整または交換。	●		
スライドランナー	磨耗、損傷の有無を点検。	●		
	*各必要に応じて交換。			●
ブレーキ、パーキングブレーキ	動作と液漏れを点検。	●		
	*必要ならば遊びを調整、パッドを交換。			●
	*ブレーキ液を交換。	***ページの要点を参照ください。		
ドライブチェーンオイル	オイルレベルを点検。		●	
	*交換。			●
ドライブチェーン	弛みを点検。 *必要に応じて調整。	使用開始から500 km走行後、以後800km走行ごと。		

* この点検項目はヤマハ販売店による整備を推奨します。

<table>
<tr><th>点検項目</th><th>説明</th><th>使用前の点検
（毎日）</th><th>使用開始から
1カ月後または
800 km
（40時間）走行後</th><th>各シーズン
ごと、または
3,200 km
（160時間）
走行ごと</th></tr>
<tr><td rowspan="2">スキー、
スキーランナー</td><td>磨耗、損傷の有無を点検。</td><td>●</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>*必要に応じて交換。</td><td></td><td></td><td>●</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ステアリング系</td><td>動作を点検。</td><td>●</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>*必要に応じてトウアウトを調整。</td><td></td><td></td><td>●</td></tr>
<tr><td>ライト類</td><td>動作を点検。
必要に応じてバルブ交換。</td><td>●</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">バッテリー</td><td>液レベルを点検。
必要に応じ蒸留水のみを補充。</td><td>●</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>*比重とブリーザーホースの動作を点検。
必要に応じて充電、是正。</td><td></td><td></td><td>●</td></tr>
<tr><td rowspan="4">*プライマリ
クラッチ、
セカンダリ
クラッチ</td><td rowspan="2">つながり具合とシフト速度を点検。
必要に応じて調整。</td><td></td><td></td><td>●</td></tr>
<tr><td colspan="3">運転する標高が変わった時。</td></tr>
<tr><td>シーフを検査。磨耗、損傷の有無を点検。
ウェイト、ローラー、ブッシングを検査。プライマリの磨耗を点検。
ランプシューズ、ブッシングを検査。セカンダリの磨耗を点検。
必要に応じて交換。</td><td></td><td></td><td>●</td></tr>
<tr><td>指定グリスを注油。</td><td></td><td></td><td>●</td></tr>
<tr><td>*ステアリング
カラム
ベアリング</td><td>指定グリスを注油。</td><td></td><td></td><td>●</td></tr>
<tr><td>*スキー、
フロント
サスペンション</td><td>指定グリスを注油。</td><td></td><td></td><td>●</td></tr>
</table>

* この点検項目はヤマハ販売店による整備を推奨します。

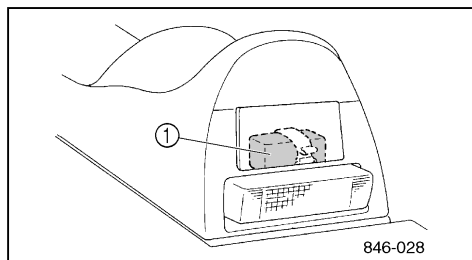
点検項目	説明	使用前の点検（毎日）	使用開始から1カ月後または800 km（40時間）走行後	各シーズンごと、または3,200 km（160時間）走行ごと
*サスペンションコンポーネント	指定グリスを注油。			●
*パーキングブレーキケーブルエンド、レバーエンド、スロットルケーブルエンド	指定グリスを注油。			●
	ケーブルの損傷の有無を点検。必要に応じて交換。			●
シュラウドラッチ	シュラウドラッチがかかっていることを確認。	●		
取付金具、ボルト類	締めつけ具合を点検。*必要に応じて修理。	●		
携帯工具とスペアパーツ	適切な収納を確認。	●		

* この点検項目はヤマハ販売店による整備を推奨します。

要　点

ブレーキ液の交換

1. マスターシリンダまたはキャリパーシリンダを分解した時はブレーキ液も交換してください。通常はブレーキ液レベルを点検し、必要に応じて液を補充してください。
2. マスターシリンダ、キャリパーシリンダの内部部品については、オイルシールを2年ごとに交換してください。
3. ブレーキホースは4年ごとに、または割れや損傷が見つかったなら交換してください。

ESU00142

携帯工具

携帯工具には、大部分の定期点検や小さな修理に十分な工具が入っています。ナット、ボルトを適正に締めるにはトルクレンチが必要です。

① 携帯工具

⚠注　意

エンジンを始動する前に、携帯工具がホルダーにきちんと固定され、バンドでしっかりとくくられていることを確認してください。

要　点

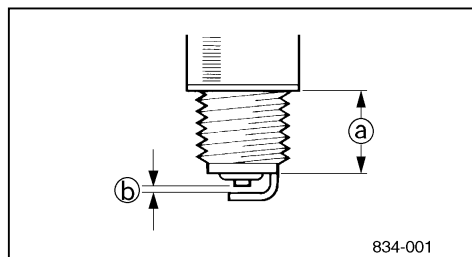
トルクレンチが必要な整備をトルクレンチなしでおこなったならば、作業後スノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んでトルクを点検してもらい、必要ならトルクを調整してもらってください。

ESU01442

スパークプラグの点検

スパークプラグは重要なエンジン部品ですが、簡単に点検することができます。スパークプラグの状態はエンジンの状態を示しています。プラグガイシ部分の色を点検してください。薄い小麦色が理想的です。明らかに違う色の場合は、エンジンに何らかの異常があると考えられます。白い場合は、エアを取り入れる経路に漏れがあるか、もしくはキャブレタ設定に問題があるかもしれません。スノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで検査・修理を受けてください。スパークプラグは熱と付着物によって徐々に消耗しますので、定期的に取りはずして点検してください。スパークプラグを別のタイプに変える場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

指定スパークプラグ：
BR9ES (NGK)

スパークプラグにはネジ山部分の長さが異なるものが、何種類かあります。ねじ山の長さ（リーチ）は、スパークプラグガスケットシートからネジ山部分末端までの長さを表します。リーチが長すぎるとエンジンがオーバーヒートしたり損傷したりする恐れがあります。リーチが短すぎるとスパークプラグが汚れたり、エンジン性能が低下する可能性があります。また露出したねじ山部にカーボンが付着すると燃焼室にホットスポットを形成したり、ネジ山を損傷させたりします。スパークプラグは必ず指定されたリーチのものを使用してください。

スパークプラグのリーチⓐ：
19.0 mm

スパークプラグを取り付ける時は、ワイヤシックネスゲージで電極ギャップを測定し、指定の数値に調整してください。

スパークプラグのギャップⓑ：
0.7−0.8 mm

またスパークプラグを取り付ける時は必ずガスケット面を清掃してください。ネジ山に汚れがついていたら拭き取り、指定トルクでプラグを締めつけてください。

スパークプラグ締め付けトルク：
20 Nm (2.0 m · kgf)

ESU03701

エンジンアイドリング回転数の調整

⚠注　意

- **この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。**
- **スロットルレバーがスムーズに動くことを確認してください。**
- **キャブレタが同期して動作することを確認してください。**

1. エンジンを始動し、暖機運転します。

要　点

「エンジンの始動」の項を参照ください。

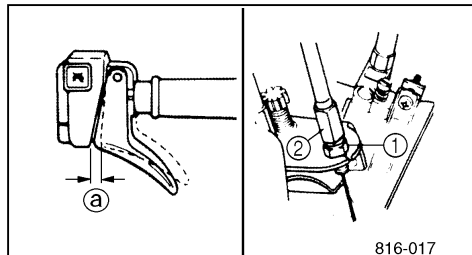
2. スロットルストップスクリュー①を締め込んだり、緩めたりして、エンジンのアイドリング回転数を調整します。

標準エンジンアイドリング回転数：
1,300 ± 100 r/min

ESU01472

スロットルケーブルの調整

⚠注　意

必ずエンジンのアイドリング回転数の調整をおこなってから、スロットルケーブルの調整をしてください。

1. ロックナットを緩めます。
2. アジャスタを締め込んだり、緩めたりして、スロットルレバーの遊びを適正にします。

スロットルレバーの遊びⓐ： 1.0−2.0 mm

① ロックナット
② アジャスタ

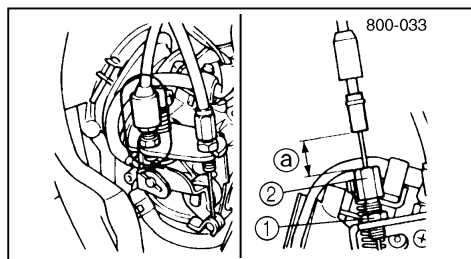
3. ロックナットを締め付けます。

ESU01492

オイルポンプケーブルの調整

⚠注　意

必ずスロットルケーブルの調整をおこなってから、オイルポンプケーブルの調整をしてください。

1. ロックナットを緩めます。
2. オイルポンプのアウターケーブルを引っ張り、アジャスタを締め込んだり、緩めたりして、アジャスタとアウターケーブルとの間の遊びを調整します。

ポンプケーブルの遊びⓐ： 19 ± 1 mm

① ロックナット
② アジャスタ

3. ロックナットを締め付けます。

ESU01532

キャブレタの調整

⚠注 意

- **この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。**
- **エンジンの損傷を防ぐため、キャブレタサイレンサが取付られていることを必ずエンジン始動前に確認してください。**

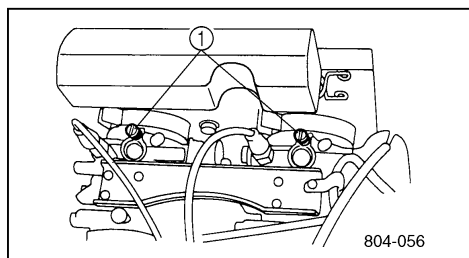
気温の変化、標高の変化、酸素化燃料（ガソホール）の使用など、運転条件によってはキャブレタの設定変更が必要になることがあります。このような場合、キャブレタの設定をヤマハ販売店に依頼してください。

⚠注 意

900 m以上の標高で運転する場合、ドライブチェーンギアとVベルトクラッチの調整が必要です。これについてはヤマハ販売店にご相談ください。

要 点

各キャブレタについて次の設定が必要です。

エアスクリューの調整

パイロットスクリュー①を締め込んだり、緩めたりして、エンジンの低速回転数を調整します。

標準パイロットスクリュー位置：
　スクリューを一杯に締め込んで1回転戻した位置

パイロットスクリュー①	混合気	条件
締める	薄い	暖かい気候
		高い標高
緩める	濃い	寒い気候
		低い標高

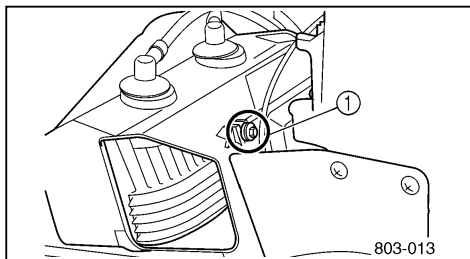
メインジェットの調整

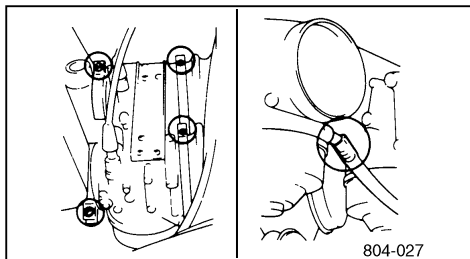
メインジェットの交換はセッティングチャートに従っておこないます。このチャートはヤマハ販売店にあります。

▲警　告

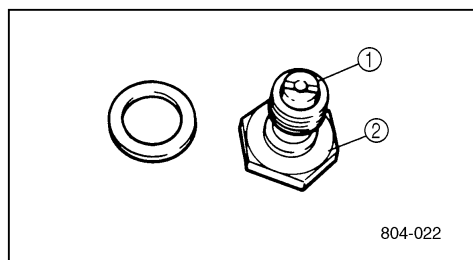
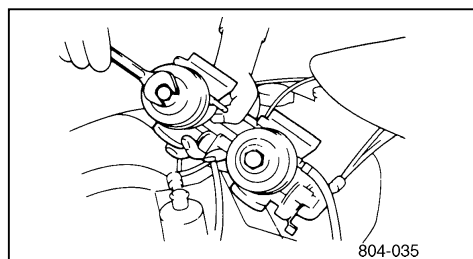
- **エンジンが熱い間はドレーンプラグやフロートチェンバーを絶対に取りはずしてはいけません。さもないと燃料がフロートチェンバーから溢れ出して発火し、怪我の原因となる恐れがあります。**
- **ドレーンプラグやフロートチェンバーを取り外す時はあらかじめキャブレタの下にぼろ布を敷き、こぼれた燃料を受けるようにしてください。**
- **燃料は引火性が高いので注意して取り扱ってください。**

標準メインジェット
① 左側キャブレタ
(P.T.O.側)
#143.8
② 右側キャブレタ
(マグネトー側)
#142.5

メインジェット	混合気	条件
小さなNo.	薄い	暖かい気候
		高い標高
大きなNo.	濃い	寒い気候
		低い標高

① ボルト

1. ボルトをはずしてエアチェンバーをはずします。

2. キャブレタクランプを緩め、キャブレタの向きを変えます。

3. 燃料ホースを挟んで燃料のフローを止めます。

4. ドレーンプラグをはずし、適正なメインジェットを取付ます。

① メインジェット
② ドレーンプラグ

5. 以上の取りはずし手順の逆の手順でキャブレタを組み立てます。

▲警 告

キャブレタの組み立て後、スロットルアウターケーブルがホルダーにしっかりと保持され、スロットルがスムーズに動作することを確認してください。

ESU01571

高地使用のための調整

ガソリンエンジンは標高が305 m上がるごとに性能が約3%低下します。これは標高が高くなるにつれ、空気が薄くなるためです。空気が薄くなれば燃焼に必要な酸素も少なくなります。

お求めになったスノーモビルは、高地使用の為の調整が可能です。最も重要な調整はキャブレタ調整です。高い標高で空気が薄くなると燃料・空気の混合比が濃くなり過ぎ、エンジン性能が低下します。一般的には、始動困難、エンジンの結露、プラグの汚れが生じます。メインジェットのセッティングチャートに従って慎重に設定してください。このチャートはヤマハ販売店に用意してあります。適切なキャブレタ設定により混合比を適正にすることができます。

重要：
標高が高くなると、空気が薄くなり、適切なキャブレタ設定をおこなっても馬力が低下します。加速も最高速度も低下すると考えてください。

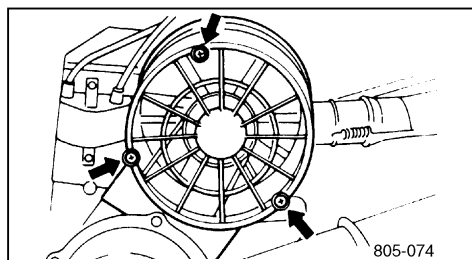
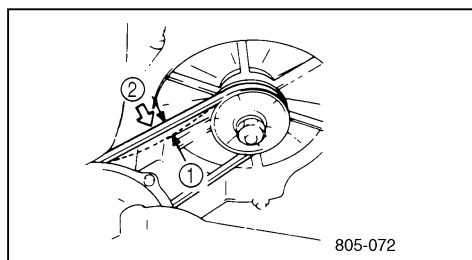
高地での馬力低下を克服するため、さらにドライブチェーンギアとVベルトクラッチの調整を変更し、性能低下と急速な磨耗を回避することが必要な場合もあります。スノーモビルをお買い求めの場所とは異なる標高の場所で運転するつもりなら、必ずヤマハ販売店にご相談ください。調整が必要かどうか教えてくれるでしょう。

▲注 意

900 mより高い標高で運転する場合、ドライブチェーンギアとVベルトクラッチの調整が必要です。ヤマハ販売店にご相談ください。

ESU01621

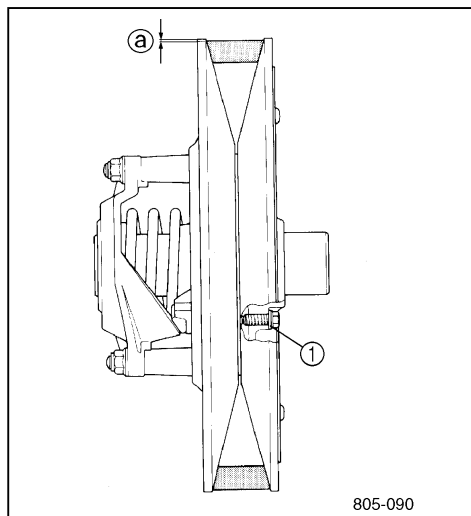
ファンベルトデフレクションの点検

1. ファンカバーをはずします。

2. ベルトの中央に50 N (5 kg, 11 lb)の力をかけてファンベルトの弛みを測定します。

① 弛み
② 50 N (5 kg, 11 lb)

標準ベルト弛み： 8 mm/50 N (5 kg, 11 lb)

弛みが規定値を超えていたらヤマハ販売店にご相談ください。

ESU01651

Vベルトの交換

警　告

新品のVベルトを取り付ける場合、必ずベルトがセカンダリシーブアセンブリの端ⓐから0－2 mm内側になるよう取り付けてください。
さもないとVベルトクラッチは違った速度でつながるようになります。
その状態でエンジンを始動するとスノーモビルは予想外の動きをするかもしれません。
Vベルト位置の調整は各調整ボルトにスペーサ①を追加しておこないます。
この調整はヤマハ販売店に依頼してください。

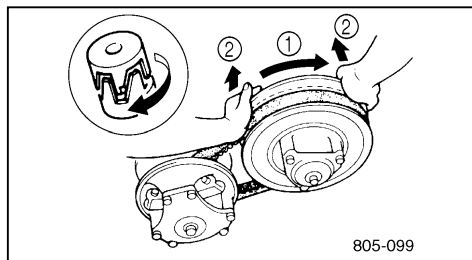
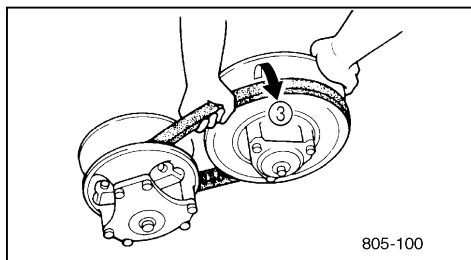
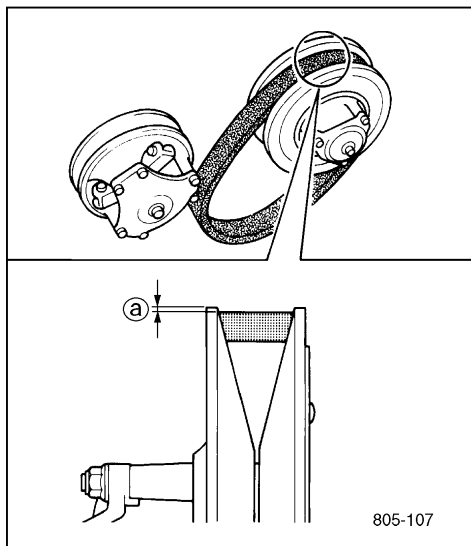
▲注　意

Vベルトが磨耗するにつれ、調整が必要になることがあります。適切なクラッチ性能を得るため、Vベルト位置が端から3 mm内側に達したなら、各調整ボルトにスペーサを追加してVベルト位置を調整してください。この調整はヤマハ販売店に依頼してください。

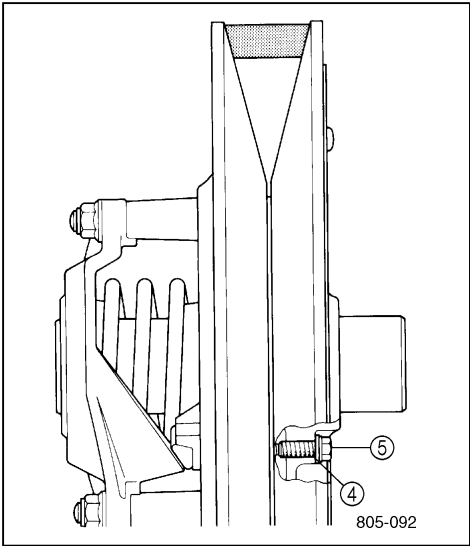
新品ベルト幅	35.2 mm
磨耗限度ベルト幅	33 mm

要　点

Vベルトを交換する時はあらかじめパーキングブレーキをかけてください。

1. ドライブガードをはずします。
2. セカンダリスライディングシーブを時計回り方向①に回し、セカンダリ固定シーブから分離するよう押し出します②。

3. Vベルト③を引っ張り上げてセカンダリ固定シーブからはずします。

4. Vベルトをセカンダリ、プライマリ両方のシーブアセンブリからはずします。
5. 新品のVベルトをセカンダリシーブアセンブリだけに取り付けます。.Vベルトを両方のシーブの間に押し込まないでください。セカンダリのスライディングシーブと固定シーブとは接触していなければなりません。Vベルトの位置を測定します。

Vベルト位置の標準ⓐ： 端から0〜2 mm内側

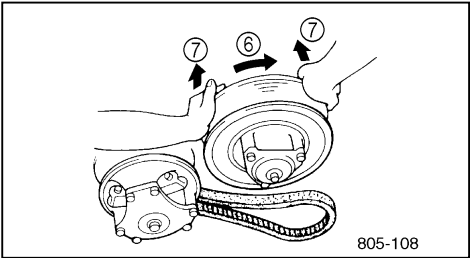
6. Vベルトの位置が不正なら、各調整ボルト⑤のスペーサ④を減らす、または追加してVベルトの位置を調整してください。

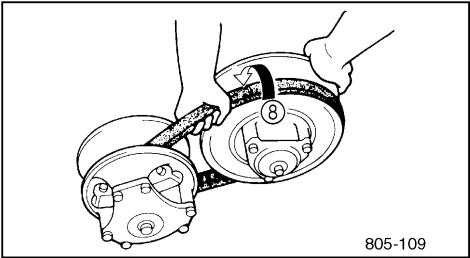
805-092

Vベルトの位置	調整方法
端より外	スペーサを減らす
端より内側 0−2 mm	不要（適正）
端から 2 mm内側	スペーサを追加する

7. 各アジャスティセングボルトを締めつけます。

調整ボルト締め付けトルク：
10 Nm (1.0 m・kgf)

8. Vベルトをプライマリシーブアセンブリに取付ます。
9. セカンダリスライディングシーブを時計回り方向⑥に回し、セカンダリ固定シーブから分離するよう押し出します⑦。

805-108

10. Vベルト⑧をセカンダリのスライディングシーブと固定シーブの間に取付ます。

805-109

11. ドライブガードを取付ます。

⚠警　告

Vベルト⑧やドライブガードをはずしたまま絶対にエンジンを回転させないでください。

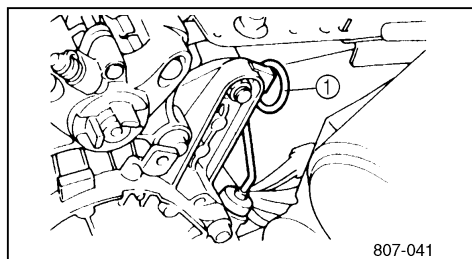
ESU01713

ドライブチェーンハウジング（オイルレベル/テンション）の点検

オイルレベルの点検

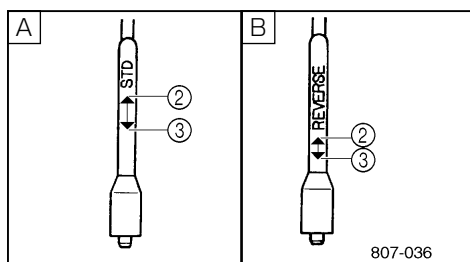
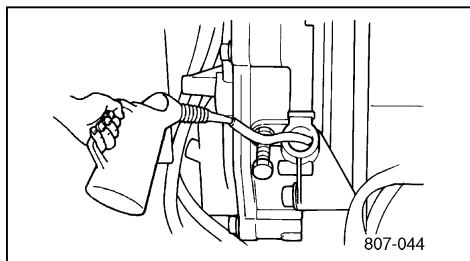
警　告

エンジンが回転した後、エンジンとマフラーは非常に熱くなっています。点検や修理をおこなう時、エンジン、マフラーがまだ熱いうちは体や衣服を接触させないでください。

1. スノーモビルを平坦な場所に置きます。
2. ディップスティック①を抜き取り、きれいなぼろ布で拭きます。次いでディップスティックをホールに差し込みます。

注　意

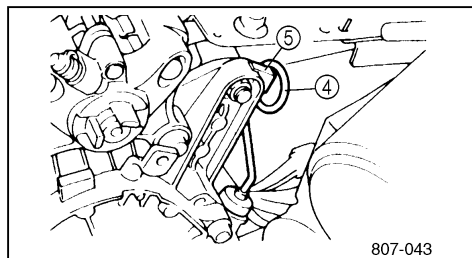
ディップスティックの端には磁石が取り付けてあります。これはドライブチェーンハウジングの中の金属性粒子を除去するためです。

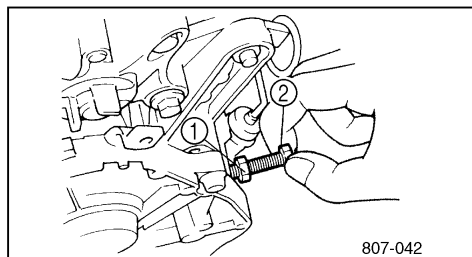
- **ディップスティックを抜き取る時は必ず、付着した金属性粒子をドライブチェーンハウジングに落とさないよう、ゆっくり静かに引き抜いてください。**
- **金属性粒子を拭き取り、ディップスティックを戻してください。**

3. ディップスティックを抜き、オイルが上限レベル、下限レベルの間にあることを確認します。オイルが減っていたなら上限レベルまで補充してください。

② 上限レベル
③ 下限レベル
A 後退ギアなしのモデル（該当なし）
B 後退ギア付きのモデル（VT500XL）

ドライブチェーンオイル：
GL-3
75W または 80W

注　意

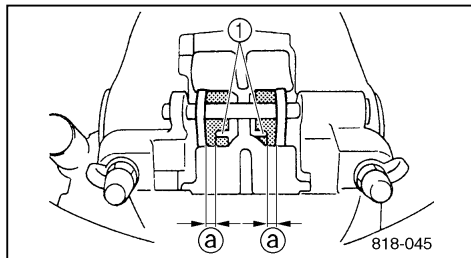
ドライブチェーンハウジングに異物が入らないようにしてください。

4. ディップスティックを取り付け、ディップスティックハンドルのループ④をドライブチェーンハウジングの突起部⑤に固定します。

チェーンテンションの調整

1. ロックナットを緩めます。
2. 調整ボルトを時計回り方向に回し、指の力だけで締め込みます。
3. 調整ボルトをそのまま保持してロックナットを締めつけます。

① ロックナット
② 調整ボルト

ESU01741

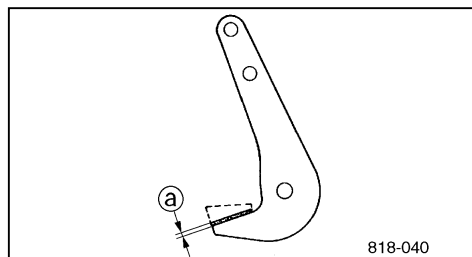
ブレーキの点検

ブレーキパッドの磨耗を点検してください。ブレーキパッドが磨耗限度に達していたなら、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。

① ブレーキパッドの磨耗インジケータ

磨耗限度ⓐ： 1.5 mm

ESU00179

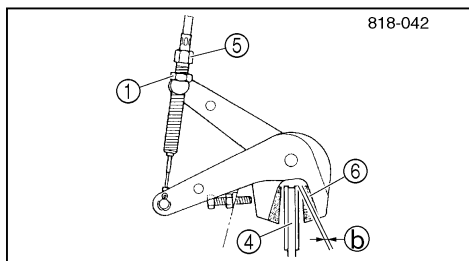
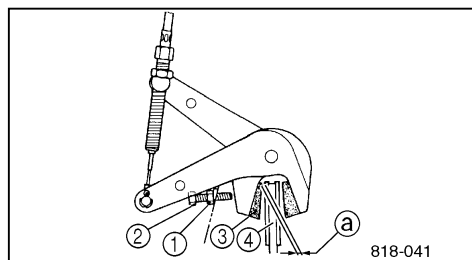
パーキングブレーキの点検

パーキングブレーキパッドの厚さを測定して磨耗を点検します。パーキングブレーキパッドが磨耗限度に達していたなら、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。

磨耗限度ⓐ：
1.0 mm

調整

パーキングブレーキパッドの磨耗が進むにつれ、適切なブレーキ性能を保つため調整が必要になります。

⚠警　告

この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

1. ロックナット①を緩めます。
2. パーキングブレーキアジャスタ②を締め込んだり、緩めたりして、パーキングブレーキパッド③とブレーキディスク④との間のクリアランスを調整します。

クリアランスⓐ：
1.2－1.3 mm

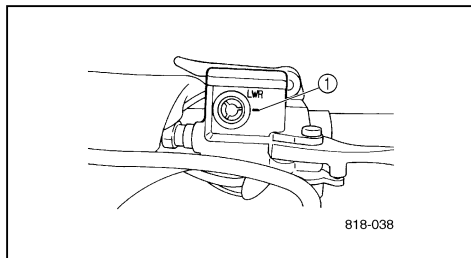
3. ケーブルアジャスタ⑤を締め込んだり、緩めたりして、パーキングブレーキパッド⑥とブレーキディスク④との間のクリアランスを調整します。

クリアランスⓑ：
1.2～1.3 mm

4. ロックナットを締めつけます。

ESU00180

ブレーキフルードのレベル点検

スノーモビルを平坦な場所に置きます。ブレーキ液が下限レベル以上であることを確認し、必要ならば補充します。

① 下限レベル

指定ブレーキ液：DOT 4

⚠警　告

補充時にマスターシリンダーに水が入らないよう注意してください。水はブレーキ液より沸点がかなり低く、ベーパーロック現象を引き起こす恐れがあります。
ブレーキ液レベルが頻繁に下がる場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

⚠注　意

ブレーキ液は塗装面やプラスチック部品を劣化させることがあります。ブレーキ液をこぼさないでください。こぼれた場合はすぐに洗浄してください。

ESU01811

ブレーキフルードの交換

定期点検で下記の部位を交換する場合、あるいはこれら部位に損傷や漏れが見つかった場合、ブレーキ液の交換が必要です。

a. マスターシリンダーおよびキャリパーシリンダのオイルシール全部
b. ブレーキホース

⚠警　告

ブレーキ液と上記部品の交換は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

ESU00183

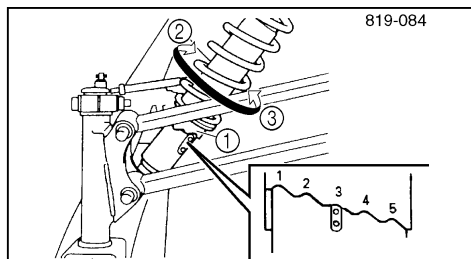
サスペンションの調整

サスペンションはライダーの好みに応じて調整することができます。たとえば柔らかい設定にすると乗り心地がよくなり、固い設定にすると特定の地形や走行条件でのハンドリングや制御がいっそう正確におこなえるようになります。

⚠警　告

この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

ESU03042

スキースプリングプリロードの調整

スプリングプリロードはスプリングプリロードアジャスタ①を回して調整することができます。

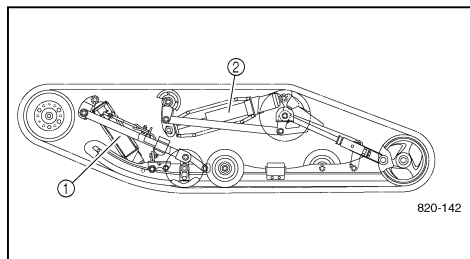
スプリングアジャスタの位置	5	4	3	2	1
プリロード	② 固い				柔らかい ③
標準	3				

⚠注　意

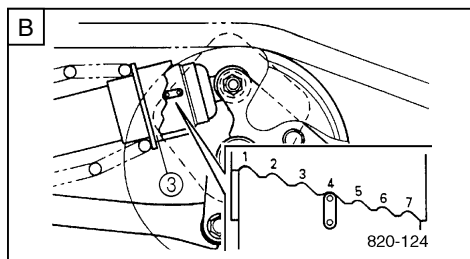
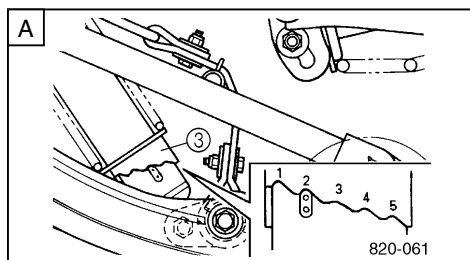
左右のスキースプリングプリロードは同一設定にしなければなりません。同一設定でない場合、ハンドリング性能が低下し、安定性が失われる恐れがあります。

ESU03051

リアサスペンションのスプリングプリロードの調整

リアサスペンションは2つのショックアブソーバを備えています。一つはリアサスペンションアセンブリの前方①に、もう一つは後方②にあります。

スプリングプリロードは前後のショックアブソーバに付いているスプリングプリロードアジャスタ③を回して調整することができます。

⚠警　告

この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

スプリングアジャスタの位置	1	2	3	4	5
プリロード	柔らかい				固い
A 標準（前）	2				

スプリングアジャスタの位置	1	2	3	4	5	6	7
プリロード	柔らかい						固い
B 標準（後）	4						

ESU01974

リアサスペンションのフルレートの調整

サスペンションのトータルスプリングレートとダンピング特性は、ショックアブソーバの取付位置を変更して調整することができます。

⚠警　告

この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。

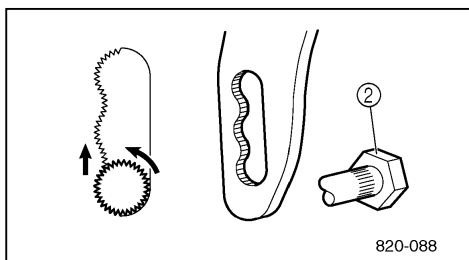
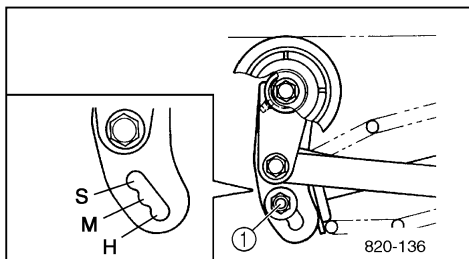
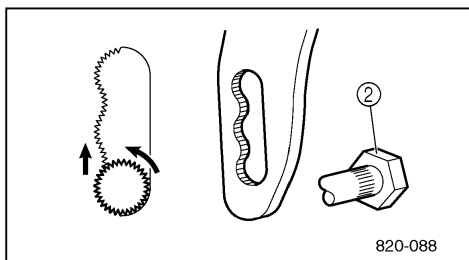
取付位置	S	M	H
スプリングレートとダンピング	柔らかい	中程度	固い
標準	M		

要　点

この調整は必ずスノーモビルを無負荷（ライダー、貨物等を載せない）にしておこなってください。

1. 調整ボルト②が回らないようをレンチでしっかりと保持しながら、フルレート調整ナット①を1/2回転または3/4回転緩めます。

⚠注　意

ナットを緩めている時は、調整ボルト②は絶対に動かさないようにしてください。

2. 調整ボルト②を目的の位置にします。

⚠注　意

調整ボルトの両端は必ず同一位置にしてください。

3. 調整ボルト②をしっかりと保持しながら、フルレート調整ナット①を締めつけます。

フルレート調整ナット締め付けトルク：
49 Nm (4.9 m・kgf)

注　意

ナットを緩めている時は、調整ボルトを絶対に動かさないようにしてください。

ESU03532

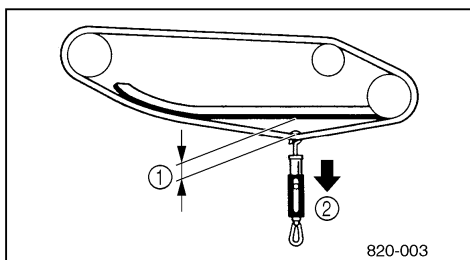
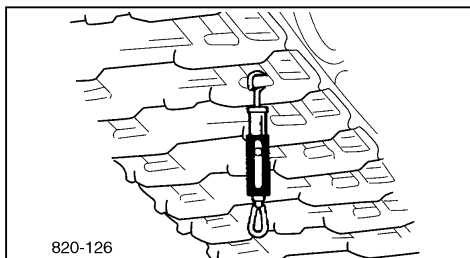
トラックの調整

警　告

破損したトラックやトラックの固定具、あるいはトラックがはね上げた小石は、運転者や同乗者に危険を及ぼす恐れがあります。次の注意事項を守ってください。

- **エンジンが動いている時は、スノーモビルの後ろにだれも立ち入らせないでください。**
- **トラックを回転させるためにリアを持ち上げる場合は、適切なスタンドを使用してスノーモビルのリア側を支えてください。絶対に人手でスノーモビルのリアを支えないでください。回転しているトラックには絶対に人を近づけないでください。**
- **トラックの状態は頻繁に点検してください。損傷したスライドメタルは交換してください。トラックが深く損傷して中の繊維が見えるようになったら、あるいはサポートロッドが破損したら、トラックは交換してください。損傷・故障したトラックでは、ブレーキ能力が失われ、スノーモビルが制御できなくなり、事故を起こす恐れがあります。**

トラックの弛みの測定

1. スノーモビルを横に寝かせます。
2. スプリングスケールでトラックの弛みを測定します。トラックの中央を100 N (10 kg)の力で引っ張ってください。

① 弛み
② 100 N (10 kg)

要　点

スライドランナーとトラックウィンドウのエッジとの間のギャップを測定します。左右両側で測定します。

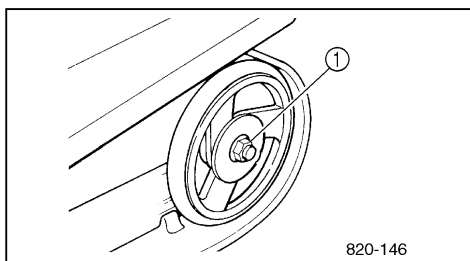
トラックの標準弛み： 25-30 mm/100 N (10 kg)

3. 弛みが不正であったならトラックの調整をおこないます。

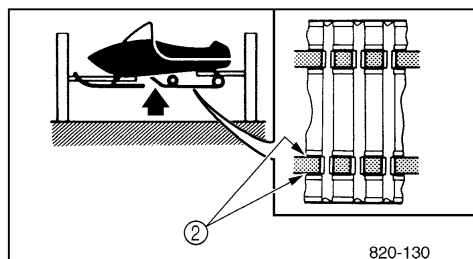
トラックの調整

⚠警　告

- **この調整は必ずヤマハ販売店に依頼してください。**
- **スノーモビルの下側の作業をおこなう時は、あらかじめ適切なスタンドでスノーモビルをしっかりと支えてください。**
- **エンジンは換気のよい場所で回してください。**

1. スノーモビルのリアを持ち上げて、適切なスタンドに載せ、トラックを地面から離します。
2. リアアクスルナット①を緩めます。

3. エンジンを始動し、トラックを1、2回転させます。エンジンを止めます。

4. トラックとスライドランナー②とのアライメントを点検します。 アライメントが不正なら、左右のアジャスタ③④を回してトラックのアライメントを適正にします。

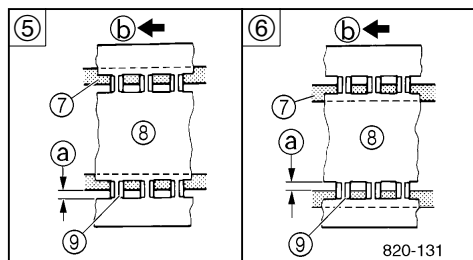
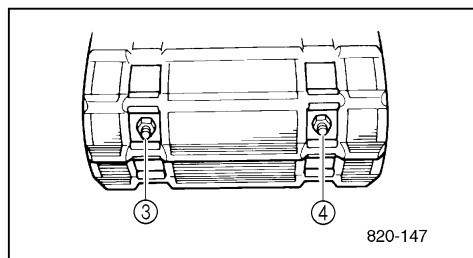
トラックの アライメント	⑤ 右に寄っている	⑥ 左に寄っている
③ 左アジャスタ	緩める	締める
④ 右アジャスタ	締める	緩める

⑦ スライドランナー
⑧ トラック
⑨ スライドメタル
ⓐ ギャップ
ⓑ 前進方向

5. トラックの弛みを指定に合わせて調整します。

トラックの弛み	指定値を超過	指定値に不足
③ 左アジャスタ	締める	緩める
④ 右アジャスタ	締める	緩める

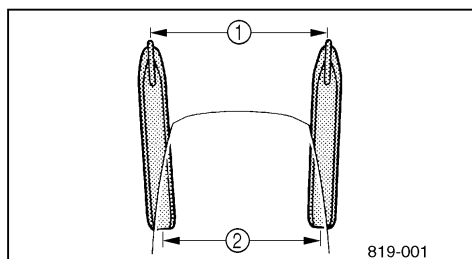
注 意

左右のアジャスタは同じ量だけ回してください。

6. アライメントと弛みを再度点検します。必要ならば調整が適正になるまでステップ3~5を繰り返します。
7. リアアクスルナットを締めます。

リアアクスルの締めつけトルク：
75 Nm (7.5 m · kgf)

スキーのアライメント調整

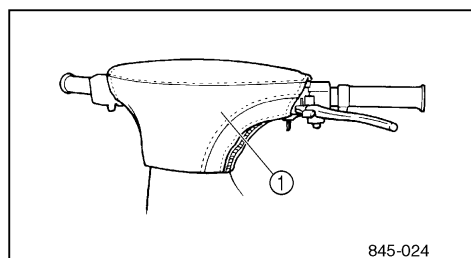
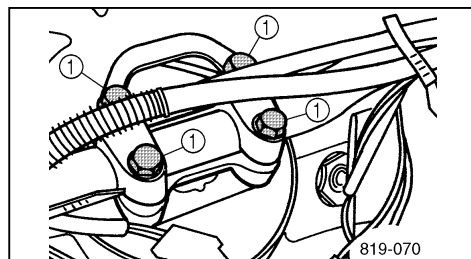
1. ハンドルバーを操作してスキーをまっすぐ前方に向けます。
2. 次の点検をおこなってスキーのアライメントを調べます。

a. スキーは前方を向いているか。
b. スキーのトウアウト（①－②）は指定範囲内か。

スキーのトウアウト（①－②）：
0－15 mm

3. アライメントが不正であればヤマハ販売店にご相談ください。

ESU02012

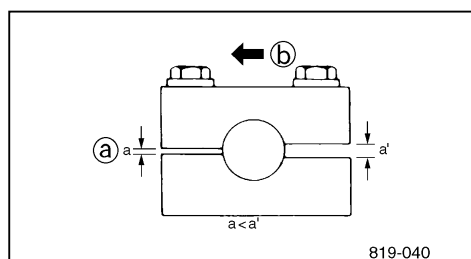
ハンドルバーの調整

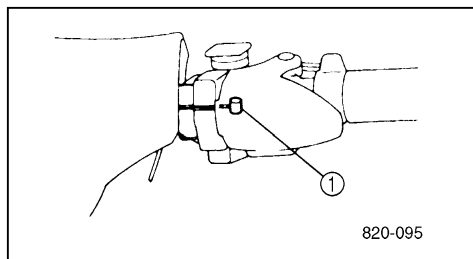
1. ハンドルバーカバー①をはずします。

2. ハンドルバーボルト①を緩めます。ハンドルバーを上下に動かし、ちょうど良い高さに調整します。

3. ハンドルバーボルトを締め、ハンドルバーカバーを取り付けます。

ハンドルバーボルト締め付けトルク：
14.5 Nm (1.45 m・kgf)

⚠注　意

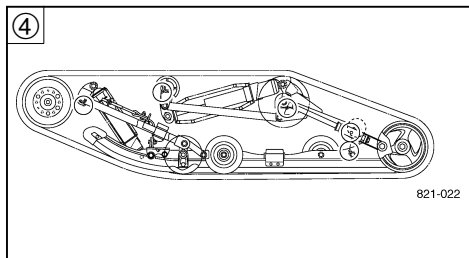
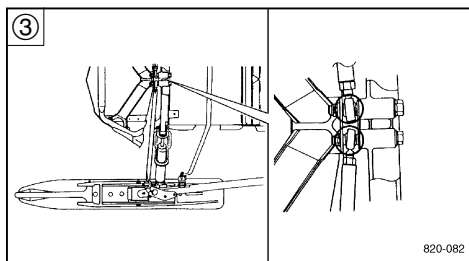
必ずハンドルバーホルダーのギャップⓐの小さい側が前ⓑに来るようにしてください。

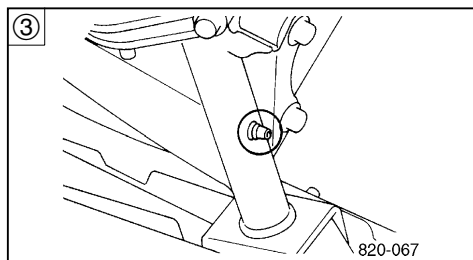
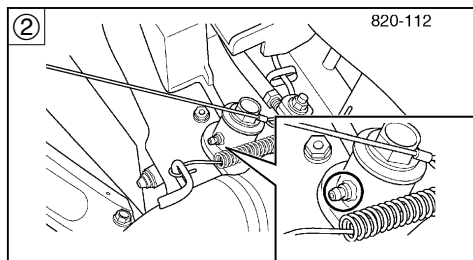
ESU00276

グリスの塗布

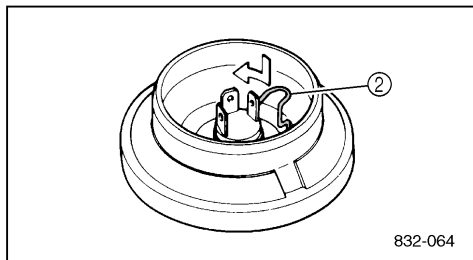
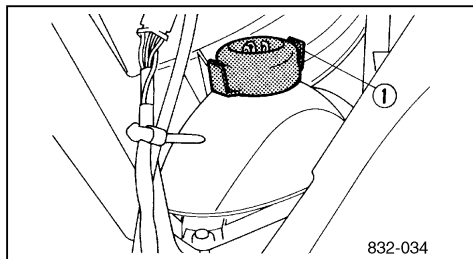
次の箇所にグリスします。

① スロットルケーブルエンド

グリス：
低温用グリス

⚠警　告

ケーブルエンドだけにグリスを塗布してください。ブレーキケーブル、スロットルケーブル自体にはグリスを注油しないでください。さもないとケーブルが凍結して制御不能になることがあります。

② ステアリング
③ フロントサスペンション
④ リアサスペンション

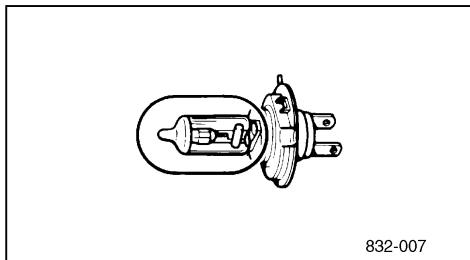
ESU02082

ヘッドライトバルブの交換

1. シュラウドを持ち上げます。
2. ヘッドライトカプラーの接続をはずします。
3. バルブホルダーカバーをはずします。
4. バルブホルダーを押し込み、次いで上向きに押してフックをはずします。

① バルブホルダーカバー
② バルブホルダー

5. バルブをはずします。

⚠警　告

熱いバルブが冷えるまで引火性の製品や手を接触させないでください。

6. 新しいバルブを取付、バルブホルダーをヘッドライトユニットに取付ます。

バルブの種類：
12 V, 60/55 W

7. バルブホルダーカバーを取付、ヘッドライトカプラーを接続します。

⚠注　意

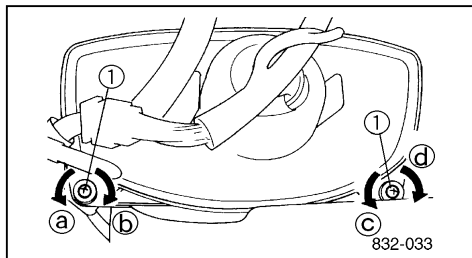
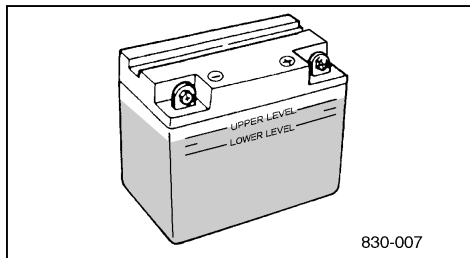
バルブのガラス部分にはオイルや手を接触させないでください。さもないとバルブの寿命が縮まり、照度も影響を受けます。
ガラス部分にオイルが付着した場合、アルコールまたはラッカーシンナーをつけた布できれいに清掃してください。

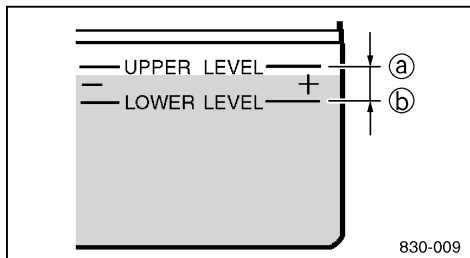
ESU02121

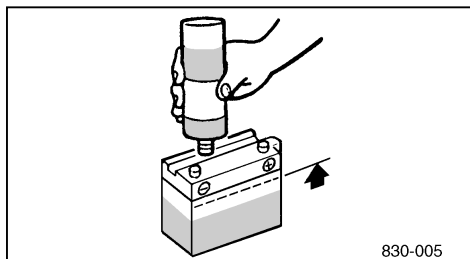
ヘッドライトビームの調整

1. ヘッドライトビームアジャスタ①を締め込んだり、緩めたりして、ヘッドライトビームを調整します。

ヘッドライトビームの動き：
ⓐ 下左方向へ
ⓑ 上右方向へ
ⓒ 下右方向へ
ⓓ 上左方向へ

ESU00306

バッテリーの点検

ブレーキ液の補充

1. バッテリー液のレベルを点検してください。レベルは上限、下限のマークの間が適正です。

ⓐ “UPPER”レベル
ⓑ “LOWER”レベル

2. 補充が必要な場合、蒸留水以外は使わないでください。

▲注　意

普通の水道水にはバッテリーに有害な鉱物が含まれています。従って補充には蒸留水しか使わないでください。

▲警　告

バッテリーでおこなわれる電気分解は有毒であり危険です。バッテリーには硫酸が含まれており、重度の火傷を引き起こす恐れがあります。皮膚、目、衣服を接触させないでください。
接触した場合の処置
- 体外：水洗いします。
- 体内：大量の水またはミルクを飲みます。続いてマグネシウムミルク、溶き卵、或いは植物性の油を飲みます。すぐに医師にかかってください。
- 目：15分間水洗いし、急いで医師にかかってください。

バッテリーは爆発性のガスを排出します。火花、火炎、たばこなどを近づけないでください。充電中あるいは密閉されたスペースで使用中は通気をおこなってください。バッテリーの近くで作業する時は必ず目を保護してください。
近くに子供を寄せつけないでください。

ESU03072

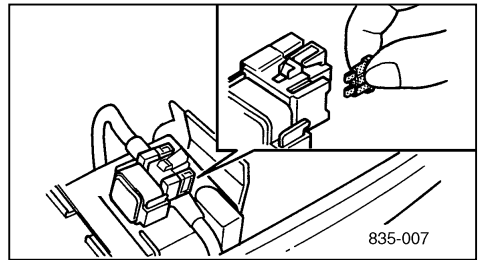
ヒューズの交換

▲警　告

必ず指定のヒューズを使ってください。指定外のヒューズを使った場合、電気系が損傷して、火災の危険が生じます。

▲注　意

ショート防止のためメインスイッチは必ず切っておいてください。

1. シュラウドを持ち上げます。
2. 飛んだヒューズを適正アンペアのヒューズと交換します。

要　点

交換したヒューズが再びすぐに飛ぶようなら、ヤマハ販売店にスノーモビルの点検を依頼してください。

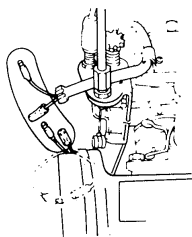
ヒューズの種類：10 A

ESU02773

トラブルシューティング

A. エンジンは回るが始動しない

1. 燃料系
   燃焼室に燃料が補給されない。
   - タンクにガソリンがない。... 燃料を補給する。
   - フューエルラインの詰まり ... フューエルラインを清掃する。
   - キャブレタの詰まり ... キャブレタを清掃する。燃焼室に燃料が補給される。
   - エンジン室にガソリンが溢れる（チョーク過剰）... スロットルを開けてエンジンを回転させる。またはスパークプラグを拭いて乾かす。

2. 電気系
   スパークが弱い、または起こらない。
   - スパークプラグがカーボンで汚れている、あるいは湿っている。... カーボンを除去する、またはスパークプラグを拭いて乾かす。必要に応じ交換する。
   - 点火系の故障 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。
   - T.O.R.S. 系の不具合 ... キャブレタスイッチコネクタをはずし、ワイヤハーネスコネクタを一緒に接続してT.O.R.S.をバイパスする。

816-022

⚠警　告

- **T.O.R.S.をバイパスする前に、必ずスロットルを正しく全閉位置まで戻しておいてください。**
- **T.O.R.S.は重要安全部品です。不具合があったらすぐにスノーモビルをヤマハ販売店に持ち込んで修理を依頼してください。**

3. 圧縮が不十分な場合
   - シリンダーヘッドナットのゆるみ ... ナットを適正に締めつける。
   - ガスケットの磨耗または損傷 ... ガスケットを交換する。
   - ピストンとシリンダの磨耗または損傷 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。

B. リコイルスターターでエンジンを始動できない

1. エンジンの焼きつき ... 潤滑不足、不適切な燃料、またはエア漏れのため焼きつきが発生。ヤマハ販売店に点検を依頼。
2. スノーモビルの輸送中クランクケースに燃料が溢れたため「ハイドロロック」が発生。... スパークプラグを抜き、点火をオフにしてエンジンを何回か回転させ、余分な燃料を吐き出させる。ヤマハ販売店に点検を依頼。

C. 電気スターターが動作しない、または動作が遅い

1. ワイヤ接続の不具合 ... 接続を点検、またはヤマハ販売店に点検を依頼。
2. バッテリーの上がり ... バッテリー液を点検し充電する。
3. エンジンのトラブル ... 上記Bの点検をおこなう。

D. エンジン出力が低い

1. スパークプラグの不具合 ... スパークプラグを清掃または交換する。
2. 標高または温度にメインジェットが不適合 ... ヤマハ販売店にキャブレタの点検を依頼。
3. 燃料フローが不適正。... 上記A.1.を参照。
4. 標高または諸条件にVベルトクラッチの設定が不適合 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。

E. エンジンがいつもバックファイヤを起こす、または失火する

1. スパークプラグの不具合 ... スパークプラグを交換する。
2. 燃料系の詰まり ... 上記A.1.を参照。
3. T.O.R.S. 系の不具合 ... 上記A.2.を参照。

F. スノーモビルが動かない

1. Vベルトクラッチの不具合 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。
2. トラックが動かない ... トラックの異物噛み込み、または潤滑不足のためスライドランナーがスライドメタルに溶着。
3. ドライブチェーンがきつい、緩い、または破損 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。

G. Vベルトのねじれ

1. Vベルトの不良 ... 良品Vベルトと交換する。
2. Vベルトクラッチのオフセットが不適正。... ヤマハ販売店に点検を依頼。
3. エンジンマウントのゆるみ、破損 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。

H. Vベルトの滑り、焼け

1. Vベルトまたはプライマリ/セカンダリシーブアセンブリにオイルまたは泥が付着 ... 清掃する。
2. ドライブラインに問題 ... 上記Gを参照。

I. シフトアップ、シフトダウンがうまくいかない、またはシフトした時ショックがある

1. Vベルトの磨耗または損傷。... Vベルトを交換する、またはヤマハ販売店に点検を依頼。
2. 標高または諸条件にVベルトクラッチの設定が不適合。... ヤマハ販売店に点検を依頼。
3. プライマリシーブアセンブリの磨耗または粘着 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。
4. セカンダリシーブアセンブリの磨耗または粘着 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。

J. ドライブチェーンとスプロケットのノイズまたは大きな振動

1. Vベルトクラッチコンポーネントの破損。... ヤマハ販売店に点検を依頼。
2. ベアリングの磨耗または損傷 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。
3. フラットスポット付きVベルトの磨耗または損傷。... 交換する。
4. アイドラーホイールまたはシャフトの磨耗または損傷 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。
5. トラックの磨耗または損傷 ... ヤマハ販売店に点検を依頼。

ESU00220

保管方法

スノーモビルを長期間保管する時は、劣化防止のため何らかの予防措置が必要です。

ESU00224

エンジン

1. スパークプラグをはずし、小スプーン1杯ほどのYamalube 2, SAE 20W40または10W30モーターオイルをプラグホールから注入し、スパークプラグを再度取り付けます。エンジンを何回転か手で（または電気的に）回し（スパークプラグリードの接続をはずし、またはアースさせて）、シリンダ壁にオイルをなじませます。

ESU00225

燃料の抜き取り

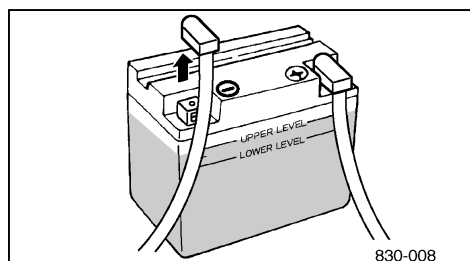
燃料タンクとキャブレタから燃料を抜き取ります。

ESU00226

車体

1. 指定箇所すべてにグリスまたはオイル(SAE 5W30)を注油します。
2. トラックを緩め、車体をブロックの上に載せ、トラックを地上から離します。
3. スノーモビルの外装を清掃し、防錆剤を塗布します。
4. 乾燥し通気がよい場所にカバーをかけてスノーモビルを保管します。
5. 保管、輸送または運転する時、スノーモビルは直立姿勢に保ってください。

ESU02531

バッテリー

1. バッテリーをはずし、フルードレベルを点検します。(「バッテリー：バッテリー液の補充」の項、64ページの指示を参照ください。)
2. フルードレベルを点検した後、十分に充電します。
3. 乾燥した場所にバッテリーを保管し、1ヶ月に1度充電します。

バッテリーは気温が高すぎる（30℃以上）または、低すぎる（0℃以下）場所に保管しないでください。
バッテリーを取り付ける時は、あらかじめヤマハ販売店に点検とフル充電を依頼してください。

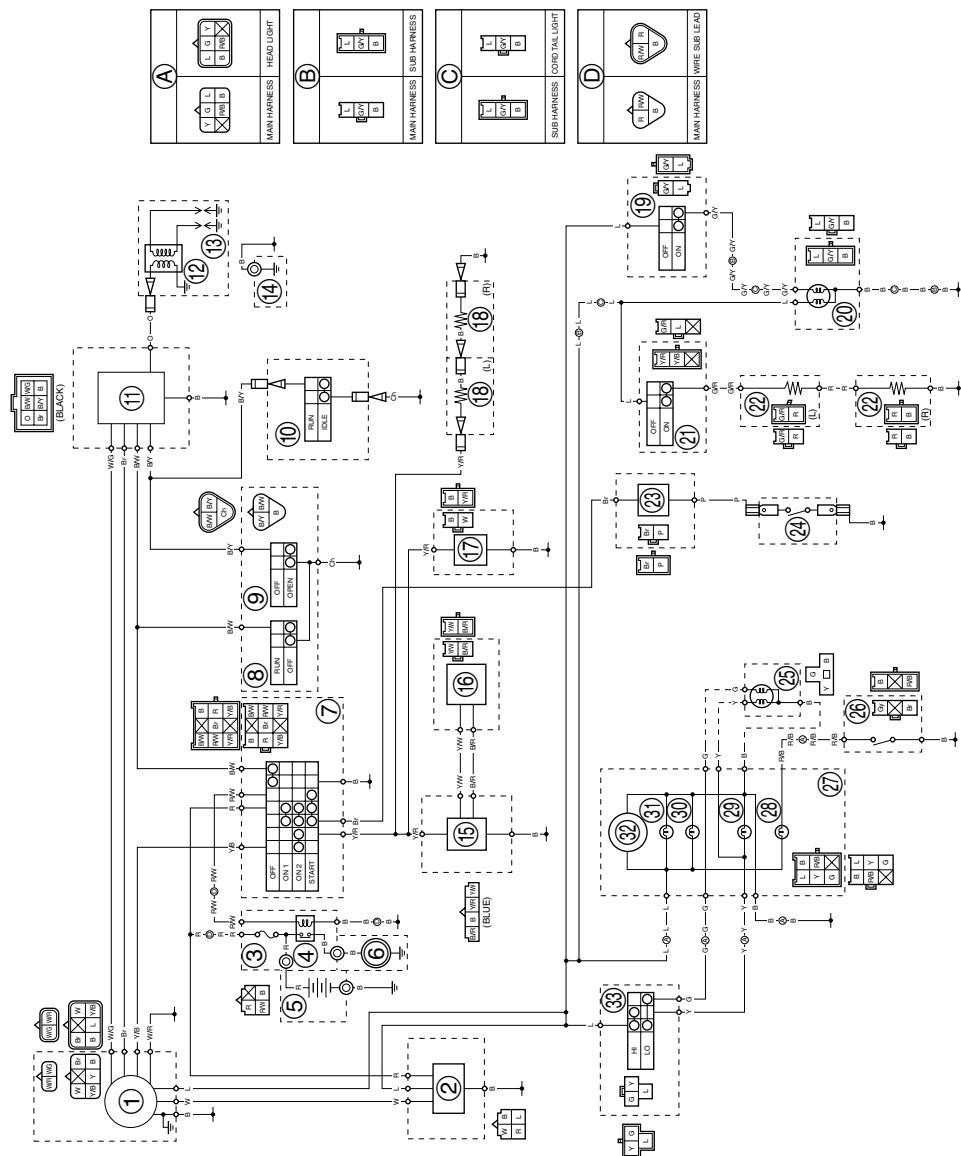
⚠警　告

- **バッテリーからリード線を外す時は、まずマイナス側、次いでプラス側をはずしてください。**
- **バッテリーを取り付ける時は、まずプラス側、次いでマイナス側のリード線をバッテリーに接続してください。**

仕様諸元

	販　売　名　称		VT500XL
寸法	全　長		2990mm
	全　巾		1200mm
	全　高		1330mm
原動機	乾　燥　重　量		240kg
	エンジン種類		2サイクル7ポート
	冷　却　方　式		強制空冷
	気筒数・配列		2気筒、並列
	総　排　気　量		485cm³
	内　径　×　行　程		72mm×59.6mm
	圧　縮　比		6.7：1
	最高出力時回転数		7250 ±250 r/min
	最大トルク時回転数		6750 ±250 r/min
	始　動　方　式		セルモータ&リコイル式ハンドスタータ
	点　火　方　式		C.D.I
	潤　滑　方　式		オートルーブ
	キャブレタ方式		B38-32×2
	キャブレタメーカー		三国
	点火プラグ型式		BR9ES (NGK)
スイッチ	キルスイッチ		プッシュ・プル式
車体	フ　レ　ー　ム		アルミ
	カ　ウ　ル		FRP
	ラゲージボックス		シート後方
	パッセンジャーグリップ		有
	燃料タンク容量		45ℓ
	オイルタンク容量		3.3ℓ
動力伝達装置	1　次　減　速		Vベルト式
	クラッチ型式		自動遠心クラッチ
	変　速　機　型　式		Vベルト無段変速機
走行・懸架装置	走　行　装　置	前	スキー×2
		後	トラック（内ラグ）
	トラック材質		補強入りラバー
	トラック駆動		複列駆動
	トラック張り		25〜30mm/10kg
	懸　架　方　式	前	リーディングアームサスペンション
		後	スライドレールサスペンション
ブレーキ方式			ディスクブレーキ
燈火	ヘッドライト		12V-60/55W
			Hi/Low ビーム付ハロゲンランプ
	ストップ／テールランプ		12V-23/8W
	バッテリ型式		YB16AL-A2
	バッテリ容量		12V16AH
乗車定員			2名

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

ESU00233

① CDIマグネト
② レクチファイヤーレギュレーター
③ ヒューズ
④ スタータリレー
⑤ バッテリ
⑥ スタータモータ
⑦ メインスイッチ
⑧ エンジンストップスイッチ
⑨ スロットルスイッチ
⑩ キャブレタースイッチ
⑪ CDIユニット
⑫ 点火コイル
⑬ 点火プラグ
⑭ アース
⑮ レギュレーター
⑯ 可変抵抗器
⑰ サムウォーマー
⑱ グリップウォーマー
⑲ ブレーキライトスイッチ
⑳ テールランプ/ブレーキライト
㉑ パッセンジャーグリップウォーマースイッチ
㉒ パッセンジャーグリップウォーマー
㉓ DC後退ブザー
㉔ ギヤポジションスイッチ
㉕ ヘッドライト
㉖ オイルレベルスイッチ
㉗ スピードメータ
㉘ オイルレベル警告灯
㉙ ハイビームインジケータライト
㉚ スピードメータライト
㉛ タコメータライト
㉜ タコメータ
㉝ ヘッドライトビームスイッチ

カラーコード

B .... 黒
Br .... 茶
Ch .... 濃茶
G .... 緑
Gy .... 灰色
L .... 青
O .... オレンジ
P .... ピンク
R .... 赤
W .... 白
Y .... 黄
B/R .... 黒/赤
B/W .... 黒/白
B/Y .... 黒/黄
G/R .... 緑/赤
G/Y .... 緑/黄
R/B .... 赤/黒
R/W .... 赤/白
W/G .... 白/緑
W/R .... 白/赤
Y/B .... 黄/黒
Y/R .... 黄/赤
Y/W .... 黄/白

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました製品やサービスに関してのご意見はヤマハ販売店または下記の<ご相談窓口>へお気軽にお申し付けください。

名　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
■本店			
ヤマハ発動機販売（株）営業統括 冬期商品販売課	☎0538(21)3879	〒438-0016	静岡県磐田市岩井2000-1
◆北海道			
ヤマハ発動機販売（株）北海道営業所 サービス課	☎011(222)6151	〒060-0031	北海道札幌市中央区北1条東7丁目10-35
◆東北			
ヤマハ発動機販売（株）東北営業所 サービス課	☎022(232)1749	〒983-0024	宮城県仙台市宮城野区鶴巻1丁目22-40
◆関東			
ヤマハ発動機販売（株） サービスセンター関東	☎048(755)1821	〒344-0057	埼玉県春日部市南栄町3
◆中部			
ヤマハ発動機販売（株）中部営業所 サービス課	☎052(917)1556	〒462-8555	愛知県名古屋市北区辻本通2 - 34
◆西日本			
ヤマハ発動機販売（株） 関西冬期商品販売課	☎078(806)7325	〒657-0841	兵庫県神戸市灘区灘南通1-1-6
サービスセンター西日本	☎078(806)7308	〒657-0841	兵庫県神戸市灘区灘南通1-1-6
◆九州			
ヤマハ発動機販売（株）九州営業所 サービス課	☎092(411)3785	〒816-0097	福岡県福岡市博多区半道橋2丁目7-52

【ご注意】
- 土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。
  その他夏期等休業させていただく場合があります。
- 区画整理、電話局の親増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

索引（さくいん）

あ行
圧雪 34
安全にご使用するにあたって 7
運転 8
運転の前に 7
エンジン 68
エンジンアイドリング回転数の調整 44
エンジンオイル 22
エンジンストップスイッチ 16
エンジン停止 38
エンジンの始動 29
オイルポンプケーブルの調整 45
オイルレベル警告灯 16
お客様ご相談窓口のご案内 73

か行
各部の名称 11
キャブレタの調整 46
緊急エンジン始動 30
グリスの塗布 62
グリップウォーマーコントロールノブ 18
携帯工具 43
携帯工具とスペアパーツ 28
高地使用のための調整 48
勾配を横断する 34
氷の上、凍結面 34
コントロール機能（各部の機能） 13

さ行
坂を下る 33
坂を上る 33
索引（さくいん） 75
サスペンションの調整 56
シフトレバー 17
車体 68
重要ラベル 5
シュラウドラッチ 19
仕様諸元 69
使用前の点検 21
スキー、スキーランナー 26
スキーのアライメント調整 61
スターターレバー（チョーク） 14
ステアリング系 27
スノーモビルの乗り方 31
スノーモビルの乗り方を学ぼう 31
スノーモビルをよく知ろう 31
スパークプラグの点検 43
スパークプラグホルダー 20
スライドランナー 26
スロットルオーバーライドシステム
（T.O.R.S.） 15, 23
スロットルケーブルの調整 45
スロットルレバー 14
スロットルレバー 22
走行 37
操作方法 29

た行
定期点検 39
定期点検表 39
ドライブガード 19, 25
ドライブチェーンハウジング
（オイルレベル/テンション）の点検 52
トラック 25

トラックの調整 58
トラックを長持ちさせるには 36
トラブルシューティング 66
取付金具、ボルト類 28
トリップメータリセットノブ 18

な行

慣らし運転 31
燃料 21
燃料の抜き取り 68

は行

パーキングブレーキの点検 54
パーキングブレーキレバー 17
配線図 71
バックレスト 20
発進、加速 32
パッセンジャグリップウォーマー
　スイッチ 18
バッテリー 27, 68
バッテリーの点検 64
ハンドルバーの調整 61
ヒューズの交換 65
ファンベルトデフレクションの点検 49
ブレーキ 24
ブレーキ液漏れ 24
ブレーキの点検 53
ブレーキフルードの交換 55
ブレーキフルードのレベル点検 55
ブレーキレバー 16
ブレーキをかける 32
ヘッドライトバルブの交換 63
ヘッドライトビームスイッチ 18
ヘッドライトビームの調整 64
保管方法 68
保守と保管 9

ま行

曲がる 32
メインスイッチ 13
物入れ 20

や行

雪、氷以外の表面上での運転 35
輸送 38

ら行

ライト類 27
リコイルスタータ 22
リヤキャリヤ 20

アルファベット

Vベルト 25
Vベルトの交換 49
Vベルトホルダー 19

★ヘルメットを必ずかぶりましょう。
★オフロードモデルは公道を走れません。
★点検・整備を忘れずに。
★安全のため改造はやめましょう。
★安全運転講習を受けましょう。
★天気予報を確認して、無理のないツアー計画を。
★ツアー時は安全備品や予備燃料を忘れずに。
★マナーを守って走行しましょう。
★動物や植物など自然への思いやりを。
★スノーモビル保険に加入しましょう。
★オフロードモデルは運輸省の認定を受けていませんので、
ナンバープレートを取得できません。
★オフロードモデルの公道走行は、道路交通法及び
道路車両法の違反となります。

QQS-CLT-885-8DX

2007.07-0.3×1

再生紙を使用しています。